
SAKURA GAOKA

100 1925 ————— 2025
100 YEARS ANNIVERSARY



学校法人 桜丘学園

SAKURA
SCHOOLS
100 YEARS
1925 — 2025
ANNIVERSARY

桜丘学園のあゆみ

目次

- 01 | ご挨拶と沿革
- 02 | 80周年から
100周年への躍進
- 04 | 年表
- 06 | 2つの新しいコース
- 08 | 普通科
- 11 | 音楽科
- 12 | 英数科
- 14 | 高等部
- 16 | 中学校
- 20 | 部活動
- 22 | 生徒会
- 24 | 復興支援ボランティア
- 25 | 平和
- 26 | 助成金の歴史
- 28 | 国際交流
- 30 | 卒業生の活躍
- 34 | 進路実績
- 35 | 役員年表
- 36 | 施設紹介

100周年を記念して作られたこの冊子は、80周年記念誌以降の20年間の記録と振り返りをまとめています。

沿革

100年のあゆみ

桜丘学園は「信・望・愛」を理念として、大正15年に設立されました。建学の精神は、今日まで脈々と受け継がれ、中学校・高等学校の教育目標のなかに息づいています。

- 明治**
- 1909年 ● 満田樹吉・オリガ夫妻が豊橋市西八町に裁縫塾を開く
- 大正**
- 1924年 ● 豊橋裁縫実習女学院と名称変更
- 1925年 ● 豊橋実践女学校の認可が下りる
- 1926年 ● 豊橋市東郷町にて豊橋実践女学校として発足
- 昭和**
- 1931年 ● 豊橋高等実践女学校と名称変更
- 1942年 ● 豊橋桜ヶ丘高等女学校となる
- 1948年 ● 桜ヶ丘高等学校となる
- 1951年 ● 学校法人桜ヶ丘学園に組織変更
- 1954年 ● 商業科を開設
- 1957年 ● 男子部を開設
- 1959年 ● 男子部を牛川校舎に移転
- 1963年 ● 音楽科開設
- 1965年 ● 南校を閉鎖し、牛川へ全学統合
- 1971年 ● 桜丘学園桜丘高等学校と名称変更
- 1986年 ● 英数コース(英数科)設置
- 平成**
- 1989年 ● 男女共学実施
- 1993年 ● 桜丘中学校再開
- 2005年 ● 本館新校舎竣工
学園創立80周年
- 2006年 ● 一貫コース(高等部)設置
- 2012年 ● 桜丘中学校20周年式典開催
- 2015年 ● 学園創立90周年
- 令和**
- 2022年 ● 野球部専用グラウンド竣工
- 2025年 ● 学園創立100周年



桜丘学園 理事長
桜丘中学校校長
満田 康一

百年目のご挨拶

明治42年、熱心なロシア正教の信者であった満田樹吉・折花（オリガ）夫妻により開設された裁縫塾を出発点として、夫妻の教育にかける並々ならぬ情熱と、地域社会の力強い支援が実を結び、大正15年に「豊橋実践女学校」が創立されました。以来、建学の精神である「信仰・希望・愛」のもと、地域の皆様のご支援を受けながら、学園は激動の昭和・平成・令和という時代を歩み続けてまいりました。

昭和17年の「桜ヶ丘高等女学校」設置、昭和20年の豊橋空襲による校舎の全焼、さらには豊川海軍工廠空襲で38名の戦没者を出した戦争の記憶――昭和22・23年の学制改革による「桜ヶ丘中学校」「桜丘高等学校」への移行、昭和32年の男子部開設、昭和38年の音楽科開設、昭和40年の現在地への統合。また、昭和33年には現在の自由闊達な校風の礎ともなった学園紛争を経験し、昭和61年には英数コースおよび商業科情報処理コースを開設。平成元年には男女共学化を実現し、平成5年には中高一貫教育を目指して桜丘中学校を再開しました。

80周年記念事業として校舎を改築し、その後、商業科の募集停止・廃止、沖野グラウンドの造成、そして音楽科の募集停止と、語り尽くせぬほどの苦難と喜び、そして絶え間ない発展の歩みを幾重にも重ねながら、今日の桜丘があります。

この100年にわたる教育の充実と発展は、教職員、生徒、保護者の皆様のたゆまぬ努力と関わりによって支えられてきました。そして100周年を迎えた本年は、単に「100年の時を刻んだ」というだけでなく、これからの桜丘学園の未来に向けた、大きな節目の年でもあります。今年度からは、普通科「普通コース」と「文理コース」の二大コース制へと転換し、これもまた、桜丘の新たな歴史の大きな一歩として記憶されることでしょう。

私たちは、これまでに築かれてきた歴史の土壌にしっかりと根を張りながら、今後も東三河地域で育つ子どもたちの学びの場として、より一層の努力を重ねてまいります。

これからも変わらぬご支援とご厚情を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

校歌

高きわれらが 塔を仰ぎて 清きおとめの とわに麗し 光の子らは ああ輝かし	希望の象徴 魂ふるう 愛情もえて 奉仕の心 集い学べり 桜丘
高きわれらが 塔を仰ぎて たけきおのこの とわに変わらじ 光の子らは ああ輝かし	希望の象徴 魂ふるう 誓いはかたく 正義の心 つどい学べり 桜丘
高きわれらが 塔を仰ぎて 若さあふるる よよにはぐくむ 光の子らの ああ輝かし	希望の象徴 魂ふるう いのちとうとび 平和の心 つどいのほこり 桜丘



80周年から100周年への躍進

～この20年を俯瞰して～



横山 貴美

Ⅰ はじめに

桜丘学園90周年事業はあえて行わなかったため、この度の100周年は実に20年振りとなります。この20年間、私自身教育活動に邁進していったので、「俯瞰して」となると、若干視野の狭い内容になるかもしれませんが、その旨を先にお伝えし、懐深いところでお読みいただけると幸いです。いずれにしましても、今、この記念誌が手元にある方は、日頃からお世話になっている方、そして桜丘を応援してくださっている方々です。この場をお借りし心より感謝を申し上げます。

Ⅱ 体育館の雑巾がけから始まった部活動改革

2005年、「バスケットボールの実業団でプロコーチを12年間務めた人が、桜丘男子バスケットボール部の監督になるらしい」という情報が広まり、職員たちはザワつきました。一見控えめで温厚なお人柄ですが、ひとたびコート脇に立てば、ご自身がプレーしているかのように全身を使って吠えまくり、喜びも怒りも部員たちにぶつける熱血監督。当時、良くも悪くも「普通」の男子バスケット部を「4年でインターハイに連れて行きます」と言い切りました。1年間は生徒を集める。そしてその生徒を3年間かけて鍛え上げる。言うは易く、果たしてどうなるかと職員たちは鵜の目鷹の目で見守りました。そんな中、監督が最初に取り組んだことは、体育館の美化。空き缶やペットボトルが落ちているは、隅っこに埃が溜まっているはで、練習どころではない。部員たちによる雑巾がけがスタートしました。汗を流しながら這いつくばって床をこする姿は、新しい光景でした。雑巾はすぐに真っ黒ボロボロ、その分体育館内はみるみるきれいになっていきました。

それまでの桜丘は、武道系の柔道部や剣道部、そして卓球部や自転車部など、体育館競技以外の部活動はすでに全国レベルでした。オリンピックも輩出していますし、部活動奨学生として市外、県外からの入学者もありました。ただ、部活動としてメジャーな、体育館競技を強化しきれずにいました。結論から言えば、監督の登用は、文字通り体育館競技の部活動改革となりました。いや、当時の桜丘には、それ以上の副産物があつたと振り返ります。

Ⅲ 生徒たちの心が整いはじめた

「ニューヨークの地下鉄」の話は有名ですね。不衛生な駅や車両を清掃し、スプレーで書かれた乱暴な落書きを消し美しい環境に整えたら、犯罪が激減した実例です。「環境が人を育てる」と言いますが、きれいに整った体育館はまさにそれでした。生徒たちの心が整いはじめたのです。あいさつ、服装から学習への取り組みに至るまで、目に見える変化がありました。「自分の荷物を整理整頓できない子が、スポーツの本質を理路整然と理解できるわけがない。そしてそれは、学力の問題ではない。当たり前のことを当たり前にさせていない大人にも責任はある。どんな生徒も粘り強く指導し続ければ、必ずできるようになる。」その言葉通り、男子バスケット部員は見違えるほどに変わっていききました。そしてあっという間に他の部活動へ波及し、体育館競技は大きく進化しました。

あえて小さく触れますが、監督は2008年にインターハイ出場を果たしました。「4年でインターハイに連れて行きます」を見事に有言実行したのです。

Ⅳ 「普音科1組」の誕生

男子バスケット部をはじめ、体育館競技部活動が力を付け始めると、桜丘を希望する生徒層も変わってきました。特に普通科の生徒は文武両道を目指す層が増え、学力帯が上がってきました。時期を同じくして、時代変化から音楽科への入学者が減り大きな決断をしました。2009年、普通科と音楽科が合同となり「普音科」になったのです。音楽科生徒は1組に所属し「普音科1組」が誕生しました。そして、この1組の存在が、普通科の学習意欲を上げていきました。私は初代1組を担任したのですが、そもそも音楽科生徒の学力帯は、普通科のそれより少し高いのです。従って1組には音楽科の学力帯にふさわしい、普通科の生徒たちを在籍させました。片や幼少期から音楽の英才教育を受けてきた生徒たち、片や運動部で活躍する生徒たち。水と油は混ざるのか？と当初は心配しましたが、「混ざる」ことを前提にした私たち教師が浅はかでした。お互いをリスペクトし始めたのです。「楽譜も見ずに楽器を演奏したり、イタリア語で歌えるってすごい」「部活で頑張っている子たちってかっこいい。私たちも体力作りのために朝のランニングを始め

ました」このように他者を知り受け入れる作用は、学内に広がりました。社会に貢献できる学力を身に付けるために、夜遅くまで学習に集中する英数科生徒へのリスペクト、当時は時代の最先端であった「探究」に着目し、こだわって総合学習に取り組み、20年かけて「探究力」を武器にした高等部生徒へのリスペクト。そして普音科になって15年が過ぎましたが、「1組」は「チャレンジクラス」として自ら希望できるようになり、今では一学年2クラス（1組・2組）に増えました。学習への意識変化が数字に表れ、先生方もより一層学習指導に力を注ぐようになりました。それまでの桜丘は、一番生徒数の多い普通科を中心に学校が回っていた気がしますが、今述べたように、各科の頑張りや役割を最大限に生かし、学校全体が回るようになった20年でした。



■あらたな 100 年に向けて挑戦

2年くらい前から「100周年」という言葉が学内でも飛び交うようになり、あらためてその重みや価値を考えた時、真っ先に思ったのは、100年間この学校を守り繋いでくださった、その時代その時代の先生方への感謝です。

桜丘という職場は、仲間や上司から「教わる」という体質ではなく、諸先生方の本気の姿から「自分もそうになりたい」と、まだ見ぬ自分が目覚め、時間をかけて自分を探究していく職場です。よく生徒たちに「なりたい自分になろう」と言いますが、先生も同じだと実感しています。私は「なりたい自分」になれているのか。その問いは、私の人生が続く限りまだまだ継続中ですが、ひとつ言えるのは、常に「今の自分でもいいのか」と、自分を客観的に見る癖がついたこと。これは、桜丘の職場環境がそうさせてくれました。生徒たちに「先生」と呼ばれる以上、私たち教師が謙虚に成長し続けたいといけないという文化がある職場です。そして、その文化を維持する秘訣は、ずばり、教育活動の如何なる場面においても「面倒くさい」方を選ぶことです。

私の言う「面倒くさい」は、「心を遣う」ということです。そもそも教師というのは、喜怒哀楽の感情すべてを動かす職業の最たるもので、学校生活の中で常に感情をコントロールし、生徒や保護者との対応をします。ある意味、心や精神を無意識にすり減らしながら教育活動に当たっています。こう表現すると、「教師とはなんと大変な職業だ」と思われるかもしれませんが、そう言いたいのではなく、「感情を動かす」ことは、決して悪いことではなく、むしろ教師自身の人生にたくさんのドラマが生まれます。もちろん、きれいで楽しいドラマばかりではありません。苦しくて思い出したくないドラマもあります。ですが、結果それらのドラマすべてが教師人生を豊かにし、人間力に厚みを持たせてくれます。生徒や保護者に心を遣った分、しっかり成長させてもらえるのです。

この100年間、「面倒くさい」DNAは脈々と受け継がれてきました。ここからまたあらたな100年の始まりです。どんな100年になっていくのか想像もできませんが、子どもが希望を持てる社会であることを切に願います。「今の時代は・・・」という、ややネガティブな枕詞は、どの時代においても存在していたと思います。古来、人が集まって社会を形成し始めた頃の社会と、SNS全盛期である2025年の社会を比べると、実は根源的な部分は同じだと言われています。だとすれば、「面倒くさい」DNAをフル活用し、諦めずに知恵を出し合い挑戦し、目の前の生徒をしっかり見ていれば、必ず道は拓けると確信しています。桜丘なら大丈夫です。この文章を書かせていただいたことで、私自身がそのことに気付くことができました。さあ、新たな100年に向けてスタートします！



年表 | この間に桜丘学園は大きく変貌をとげました。

この20年、時代とともに学校も少しずつ変わってきました。生徒・教職員・地域の皆さんと積み重ねてきた日々には、たくさんの思い出と歩みが詰まっています。ここでは、2005年から2025年までの出来事や写真を振り返りながら、あの頃の学校の様子を思い出してみたいと思います。

2005



- ・桜風寮竣工
- ・創立80周年式典
- ・東三河元気まつり開催



- ・高等部（普通科一貫コース）開設
- ・将来政策委員会発足
- ・「まちを元気にする学校」をスローガンと定める
- ・「生徒の人生に責任を持つ教育」をモットーとする

2006



- ・愛知大学との提携開始
- ・商業科募集停止
- ・深谷知広（自転車）JOCジュニアオリンピックカップ優勝
- ・外国人留学生受け入れ（バスケットボール）



- ・加藤ゆか（水泳）、谷本歩実（柔道）北京五輪出場【谷本二連覇】
- ・バスケットボール部男子ウィンターカップ初出場

2007

2008



- ・渥美夜間歩行終了
- ・高校募集対策室設置
- ・普音科誕生



- ・中川大志、学園初のプロ野球選手

2009

2010



- ・リニューアル工事竣工（四号館・記念会堂耐震・中庭造成）
- ・ダンス部世界大会優勝
- ・東日本大震災ボランティア活動開始



- ・ダンス部世界大会二連覇
- ・加藤ゆか（水泳）ロンドン五輪で銅メダル

2011

2012



- ・金子貴志（自転車）ケイリン グランプリ優勝



- ・天野拓実（柔道）、大谷杏奈（自転車）インターハイ優勝
- ・バスケットボール部男子三位

2013

2014

2015



- ・岩城啓佑（柔道）全日本カデ体重別選手権優勝
- ・バスケットボール部男子 インターハイ準優勝

2016



- ・ダンス全日本高校チームダンス7選手権総合優勝(文部科学大臣賞)



- ・小久保友祐(陸上)、富菜月(柔道)インターハイ優勝
- ・軟式野球岩手国体三位

2017



- ・バスケットボール男子 ウィンターカップ 三位
- ・卓球女子団体全国選抜大会準優勝

2018



- ・ダンス全日本高校チームダンス選手権総合優勝
- ・日本拳法全国高校選手権男子団体 優勝・女子団体 準優勝
- ・深谷知広(自転車)ワールドカップで金メダル
- ・平和の塔建立三十周年
- ・全国高等学校野球選手権愛知大会準優勝

2019



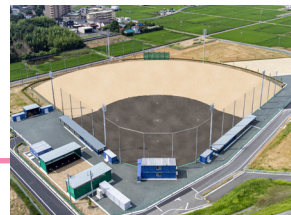
- ・卓球女子団体選抜大会準優勝
- ・用地取得(旧大建跡)
- ・絆まつり挙行

2020



- ・用地取得(沖野グランド)
- ・笠井雄太(柔道)インターハイ優勝
- ・ダンス全日本高校チームダンス選手権総合優勝
- ・富永啓生(バスケットボール)東京五輪出場
- ・尾川堅一ボクシング世界スーパーフェザー級王座獲得

2021



- ・沖野グランド竣工

2022



- ・正門、グランド門改修
- ・全日本高等学校チームダンス選手権大会(小編成部門)優勝

2023



- ・富永啓生(バスケットボール)パリ五輪出場
- ・全国高等学校総合体育大会卓球競技大会団体準優勝
- ・全日本高等学校チームダンス選手権大会(小編成部門)優勝
- ・全日本高等学校チームダンス選手権大会 文部科学大臣賞(総合優勝)受賞2連覇

2024

2025

To the next 100 years...



新普通コースの目指すもの

普通コース主務 市川善康

「普通じゃない普通コース」

100周年における2大コースへの再編、そのひとつが「普通コース」です。これまで普通科で培われた教育観とノウハウを生かすのが基本ですが、教職員からあがったキャッチフレーズは「普通じゃない普通コース」。なかなか気の利いたフレーズではないでしょうか。

何が「普通じゃない」のかと言えば、まずは同級生に全国級アスリートをはじめとする特別な力を持った者がいることです。そしてさらに、それも含めて、実に多様な性格や能力の生徒が同居していることです。にもかかわらず生徒同士は互いを認め合っています。それどころか学年が上がると、タイプの違う者同士が仲良くなっていく様子すらうかがえます。勉強はもちろん、部活動・自主活動・ボランティア活動…どこで頑張る子もみんな「偉い」。「ものさし」がたくさんある——この精神は生徒の中にも浸透しています。

大規模ゆえに多様な生徒が集まってくるのは「スケールメリット」だと言えます。「Face to face」を大切にする校風とも相まって、実体験の中で人間関係を築く体験をし、その喜びを感じられる。だから「普通じゃない」のです。



「チャレンジ」する人であれ！

桜丘の生徒は明るく、人懐っこく、たくましい。この地域で社長や起業家になっている卒業生が多いのは、このバイタリティゆえではないでしょうか。これらを育てている学校の明るさ、元気の良さはこれからも大切にしたい土台です。

くわえて新生普通コースで意識したいのは、「チャレンジ」する精神。チャレンジは自らの成長につながります。「昨日できなかったことが今日できるようになる」——なにか具体的なスキルを身につけることも大切ですが、それ以上に自分が成長する実感と喜びを高校時代に体験させたい。その体験こそが、私たち大人が彼らに与えられる最大のものです。



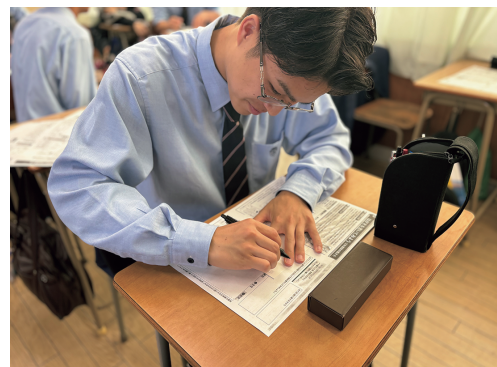
チャレンジのためには、自己肯定感が土台です。それを持たせたうえで、きっかけを与え、行動を評価し、たとえ失敗しても励まし続けるのが私達教師の役割です。その際には桜丘ならではの「生徒と先生の距離の近さ」が最大限生きます。生徒をよく観て、その子に合った言葉をかけ、同時に学校内に様々なステージを用意する——これに普通コースの教師は邁進していきたいと思っています。

学習指導のブラッシュアップ

「ものさし」が学習以外にもある」とことと「学習を軽んじる」ことは全くの別物です。高校生の基本は学びであることは普遍的。学習は「チャレンジをして成長する」プロセスが最も目に見えやすい分野でもあります。また現実的にも、年々変化する就職・進学状況に対応すべく確かな学力と学習習慣（学習体力）を身につけることは欠かせません。

新普通コースは特別進学コースを目指すわけではありませんが、学習でもしっかり頑張るステージをつくりたいです。そこでスタートに当たって、これまでの「チャレンジクラス」等の取り組みにくわえて「学習クラブ」「進学セミナー」「学習支援室」といった仕掛けを用意しました。

この先も、形態は時代と生徒にマッチしたものに変化させていきますが、どのような形になろうとも、学習指導をブラッシュアップするのは永遠の課題です。普通コースの生徒に、学習面でも「チャレンジと成長」を体験させたいのです。



文理コースが目指すもの

文理コース主務 柴田真宏

「ほかにはない進学コース」

学園創立100周年を迎える2025年。これまでそれぞれに歴史を刻んできた、英数科（英数コース）、高等部（一貫コース）、音楽科が融合した新たなコースがスタートしました。

文理コースは英数科を中心に培ってきた難関大学進学を叶える学習活動、高等部が大切にしてきた、新たな社会を創造するための探究学習を二本柱とする、時代に合った新しい特別進学コースです。また、音楽科は新たに、普通科文理コースのなかの音楽専攻として、学力を高めるとともに芸術文化への造詣を深める教育を目指します。

先行きが不透明だといわれる昨今、大学で学ぶ内容はもちろん、受験の形態も大きく変わっています。生徒たちにとって大切なのは、自分自身の特性を知り、自分にあった進路選択をすることです。担任を中心とした教員の働きかけを通して適性を見極めるとともに、進路講演や大学訪問などを通して一人一人に合った進学先を見つけていきます。

学習



学力を高めるためには、一人一人に合った学習を積み上げ、知識を身につけていくことが大切です。それを実現する様々な学習システムを用意しています。

少人数グループ指導を中心とした学習会【学習ゼミ】、授業内容をじっくりと身につけるための【CF（チェック＆フォロー）セミナー】を活用し理解を深めるとともに、自分のペースで20:30まで学校で学習できる【放課後自主学习】を通して、自立した学習者となることを目指します。長期休暇中には【マイセレクトセミナー】を開講。自分にあった講座を選択し、得意科目を伸ばし、苦手科目を克服していきます。

これら学習システムを活用するためには、日常の応答が不可欠です。担任との個別面談を通して、それぞれのペースやスタイルに合わせた学習方法を一緒に模索します。

探究



私たちは「探究」を「立ち止まって深く考える」活動だと定義しています。日常生活はもちろん、学習においても、なぜだろう、どうしたら解けるのだろうという自身への問いかけが、自分自身を成長させる原動力になります。

実在する企業でのインターンを通して、企業活動の内容や働くことの意義を考える【企業探究】。新たな企画を提案するプレゼンテーションに挑みます。国際社会、とくにまだ発展途上にある東南アジアに目を向け、自分たちのできる貢献活動を考える【国際探究】に全員が取り組みます。また、ゼミや選択授業「創造」を通して、地域社会が持つ可能性にも目を向けます。

これらの活動を通して、物事に疑問を持ち、しっかりと考えそれを克服する方法を考え出す、そして自分のことばで伝える力を身につける。総合型選抜入試にいかすだけでなく、大学で専門分野について学ぶ、また社会に出て自分の企画を提案するための力を、探究を通じて身につけてほしいと考えています。

音楽専攻

桜丘学園の音楽科は60年余の長きにわたって、豊橋・東三河の芸術文化の一翼を担い、多くの演奏家や地域の芸術文化の担い手を育ててきました。新しく文理コースに位置付ける音楽専攻は、これまでの音楽科が作り上げてきた専門技能を高め芸術家を育てるという機能とともに、技能を活かして教育や保育分野を担う人材を育成することも視野に入れ、より幅の広い音楽教育を進めていきます。

一般大学進学も可能なカリキュラムと、専門的な技能の習得を両立させ、社会に豊かさをもたらす音楽というものにより幅広く触れられる専攻としてスタートします。

普通科文理コース



20年の 変化と挑戦

普通科



2006～08 | 愛知大学との提携はじまる

2006年から2008年は、この20年の普通科の土台を築いた大きな変化の3年間であった。特に、2007年に始まった愛知大学との提携は、普通科のその後に大きな影響を与えた。終戦直後の混乱の中で中国から豊橋に引き揚げてきた東亜同文書院が母体となった愛知大学と校



丘とのつながりは深く、第10代校長の本間喜一先生は愛知大学発足の中心となった一人である。この年、商業科募集停止も決まり、普通科の歴史は大きく動き始めた。そんな中、2008年には北京オリンピックで女子

柔道・谷本歩実が2連覇を達成。学内でも、強化が始まっていた男子バスケットボール部がインターハイ、ウィンターカップともに初出場し、中川大志は学園初のプロ野球選手として東北楽天ゴールデンイーグルスに入団するなど、スポーツの偉業が校内を活気づけた。



2009～11 | 普商科から普音科へ

商業科の募集停止により、年次進行で商業クラスは姿を消していった。商業科の先生方は、それまでの経験を普通科の中に残された商業科目や進路指導に活かしてくれた。

2009年には音楽科との合同クラスが誕生し、それまで学内で使われてきた普商科の呼称も普音科に変わった。長く続いた渥美夜間歩行も終了し、学校の様子は大きく様変わりしていった。2011年3月に東日本大震災が発生すると、学内では自分たちに何かできることをしたいという生徒たちの声を受け復興支援ボランティアが始まった。毎月11日の駅前募金や現地でのボランティア活動には多くの生徒が参加した。

部活動では、同好会からスタートしたダンス部が世界大会で優勝を飾るなど、普通科の生徒たちの可能性に目を見張る一年でもあった。



2012～14 | 学習・進路指導の充実

愛知大学との提携や普音合同クラスのスタートは、普音科生徒の学力をどう伸ばすかという問題を浮かび上がらせた。愛知大学入学後の生徒状況や、国公立音楽大学の入試対策は、何としてもクリアしなければならない課題であった。愛知大学志望者に英検準2級取得を課すとともに、普音科全体の学力底上げをねらった英検全員受験は、多くの困難がありながらも今日まで続いている。また、就職でも地元企業との信頼関係を深

め、リーマンショックで失った求人を一早く回復した。3学年教員団が中心となっていく夏休みの指導は風物詩となり、高い内定率を支えている。スポーツでは2012年に水泳の加藤ゆかがロンドン五輪で銅メダル、2013年には金子貴志がケイリングランプリ優勝と卒業生が活躍。2014年には柔道部の天野拓実、自転車部の大谷杏奈がインターハイ優勝でこれに続いた。

「念願の愛大提携を軸とした学習・進路指導」



前進路指導部長
青山 幸悦 教諭

愛知大学との提携は、桜丘にとって長年の念願でした。当時、大学改革や改編が積極的に行われる中、かつて普通科にあったセミナークラスや英数科からの入学実績とその後の活躍のほか、本校で教鞭をとっていた現代中国学部・藤森先生のご尽力もあり、このタイミングで実現しました。

大学で活躍できる生徒を送り出さなければと、できることは何でもやりました。英単語の毎日課題と週末のマラソントスト、基礎力診断テストと総合学習での学習カウンセリング、そして英検全員受験。はじめは険しい船出でしたが、部活動や生徒指導の充実とも相まって、次第に軌道に乗っていきました。愛知大学とは定期的に協議会を設け、当初は進学した学生の成績面で苦言をいただくこともありました。

徐々に高大交流が深まってきました。高校での模擬授業や愛大カレッジ体験、和太鼓部などの愛大祭派遣、中学や高等部とのコラボなどです。最近では、英検の面接試験指導に学生ボランティアが来てくれています。

私自身、愛大提携を含め、長く進路指導に携わらせてもらいました。就職から大学進学まで、進路多様校として普音科が発展できたのは、先生方の情報収集力のおかげです。送り出した生徒の評価を聞くだけでなく、就職担当の犬塚えり子先生・杉浦実千代先生によるまめな企業訪問のおかげで信頼関係を構築し、私は進学担当として大学・専門学校各校の特色や実態をつかむよう努力しました。これに部活動の先生方や卒業生を通じた生の情報が加わり、個々の生徒に応じた適切な進路指導につながっていきました。

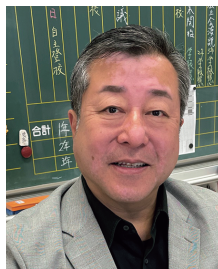
今、普音科はさまざまな歯車がかみ合っとうまく回っています。若い先生たちには、絶えずこれをメンテナンスし、さらに良いものにしてほしいですね。

2015～17 | 桜丘プライド

部活動の活性化、学習・進路指導の充実、伝統の学園祭・自主活動。かつて普通科・商業科を合わせて1学年9クラスまで減った入学者は、2015年度には普通科・音楽科で1学年12クラスまで増えた。生徒たちも桜丘生としての自信と誇りをもつようになり、いつしか『桜丘プライド』という言葉が生まれた。もちろん、これは普音科だけのものではないが、普音科の大きなエネルギーが学園全体を牽引したことは間違いないだろう。

2015年には、戦力を整えた男子バスケットボール部がインターハイ準優勝。2016年には、軟式野球部が岩手国体3位。個人でも陸上部の小久保友裕、柔道部の富菜月がインターハイで優勝する快挙があった。2017年には、ダンス部が全日本高等学校チームダンス選手権で総合優勝。それぞれの部の活躍をお互いに応援する、普通科の生徒が音楽科の演奏会を聴きに行くといった光景が当たり前のものとなった。

「選ばれる学校になるために」



前普通科主務
田嶋 之貴 教頭

80周年の少し前、2004（平成16）年に初めて学年主任を拝命しました。当時は緩やかに入学者が減少していた時期で、『選ばれる学校になるには』というのが私の秘かなテーマでした。学内では『黙教育』がクローズアップされるようになり、他校の実践も参考にしていっていかれた中から朝読書に取り組むことにしました。その頃は、朝のSTに行くと、教室のあちこちに遅刻者の空席があることも珍しくありませんでした。何とかこの状況を変えたい、朝の風景が変われば学校が変わると思いまし

たが、全校一斉に始めたため、当時の2・3年生には生徒にも先生方にもご苦労をおかけしたと思います。それでも、2年、3年経つうちに、朝の様子はみるみる改善していきました。それとともに、伝統の自主活動に加えて部活動、そして学習と、生徒たちの学校生活も活気あふれるものになっていったように思います。

学年主任を終えて役割が変わっていく中でも、『選ばれる学校になるには』という私のテーマは変わりませんでした。募集対策室長になったばかりの頃には、現在のような1学年13クラスという状況は想像できませんでしたが、生徒指導部長、普通科主務と務める中で、生徒や父母・地域の学校への期待が徐々に変化していることも感じました。学校づくりに完成はありません。今年度から始まった『普通コース』がより良いものになるよう、私もサポートしていく所存です。



20年の 変化と挑戦

普通科

2018～20 | 平和と永遠に

太平洋戦争末期、豊橋空襲で校舎を全焼し、豊川海軍工廠への空襲で生徒・教員を合わせ38名の犠牲者を出した桜丘にとって、平和教育は欠くことのできない柱の一つである。

2019年、そのシンボルである平和の塔が建立30周年を迎えた。原爆の火が保存された福岡県八女市から桜丘まで、900kmの道のりを自転車で行くピースリレー900が行われ、記念式典は原爆の火を保存してきた山本達雄さんのご子息・拓道さんや建立当時の校長である及部十寸保先生、生徒や地域の皆さんの出席のもと、盛大に行われた。すべての教育活動の前提である平和が、永遠に続くことを願ってやまない。

この間も部活動の活躍はめざましく、2018年には、吹奏楽部が念願の全日本高等学校吹奏楽大会に出場。男子バスケットボール部は富永啓生を擁してウィンターカップ3位。女子卓球部は全国選抜大会団体戦で準優勝(中止をはさんで2大会連続)と、名門健在を示した。2019年には、日本拳法部が全国高校選手権で初の男子団体優勝・女子団体準優勝などの快挙が続いた。また、硬式野球部は夏の県大会で準優勝、あと一步で甲子園という快進撃に学園のみならず地域が沸き立った。しかし、2020年に広がった新型コロナウィルスの猛威は、全国一斉休校や部活動の大会の中止など、生徒たちの活動に暗い影を落とした。



2021～24 | コロナ禍を抜けて

2021年に入り部活動の大会は復活したが、大人数での活動やコミュニケーションに対する制限は続いた。マスクは学校から表情を奪い、修学旅行が中止になるなど重苦しい空気が日常を支配した。しかし、それを打ち破るのもまた生徒たちであった。コロナ禍で様々な制限のある中でも櫻輝祭を成功させるなど、ほとんどの行事は安易に中止するのではなく、どうしたらできるかを考えて実施された。部活動もしばしば感染に悩

まされながらも粘り強く活動し、柔道部・笠井雄太のインターハイ優勝をはじめ、ダンス部の全日本高等学校チームダンス選手権総合優勝は2023・2024年の連覇で5回目となった。また、2024年度には女子卓球部のインターハイ団体戦準優勝のほか、和太鼓部が全国大会出場を決める(和太鼓部の本大会は2025年)快挙もあった。コロナ禍でも諦めなかった普音科の生徒たちの活躍は、100周年を越えてますます続いていくはずだ。



20年の 変化と挑戦

音楽科の伝統を守りつつ新たな挑戦へ

初代主事：故・斎藤 喬先生、2代目主事：荘 典子先生、現在主務：吉村純先生、そして同窓会会長：深谷直仁先生のもとで受け継がれてきた音楽科は、2009年より普通科I組に合流しました。スポーツの分野でも一流を目指す生徒達との交流により、音楽科生徒達の視野も更に広がり、卒業生や地域の音楽関係者の方々とのコラボレーション、そして新たなチャレンジも次々と実現しております。2025年4月より、文理コース音楽専攻として新たな一歩を踏み出します。



音楽科創設50周年記念演奏会 オペラ『夕鶴』

音楽科卒業生を含む一流のソリスト、名古屋フィルハーモニー交響楽団、小・中学生の子供たちと共に上演。桜丘学園、卒業生、父母の皆様、OB・現役を始め、多くの皆様の温かいご支援のもとに実現した大舞台。



合唱団SakuraCantabile第9回公演 ロッシーニ作曲 オペラ『シンデレラ』

現役生徒、卒業生、教員、地域の小・中学生、幅広い音楽関係の方々と共に。時間をかけて編曲したオーケストラパートも全て生演奏。18年間活動が続いています。

豊橋市主催の「豊橋青少年オーケストラキャンプ海外派遣」に参加。ドイツ・ヴォルフスブルク音楽学校の生徒達と共に、日本、ポーランド、ロシア、イタリア、フランスから集った若者たちがレッスンを受け、最終日には超満員のコンサートホールにて感動的なオーケストラ演奏を聞かせてくれました。有意義な海外交流は参加できた音楽科生徒達にとって一生の宝物。ヴォルフスブルク市役所前で撮影した写真が新聞の記事として掲載されました。



豊橋青少年オーケストラキャンプ海外派遣（ドイツ）



ビティナ『豊橋SAKURAステーション』開設

音楽科で長年教鞭をとられ、国内外で活躍する音楽家を育てられた故 杉浦日出夫先生と長谷川淳先生をお迎えして第1回ピアノステップを開催。現在は『新豊橋SAKURAステーション』として、日本各地から著名なアドバイザーをお迎えして活動中。



第9回 豊橋青少年オーケストラキャンプ

ドイツのプロの音楽家（16名）と東三河青少年（211名）が一体となり、ライブポートにて情熱溢れるコンサートが開催されました。10回継続されたこの事業に音楽科も毎年参加し、本場ヨーロッパの香りを体感。地域中学生との大切な交流機会にもなりました。



『桜丘高等学校音楽科 創設60周年を祝う会』

日本各地から音楽科へ思いを寄せる多くの卒業生、旧職員・理事、現役生徒、教員、保護者が集い、懐かしい雰囲気会場いっぱい広がる祝賀会となりました。これまでの音楽科精神を受け継ぎつつ、新たな時代へ！

『第59回音楽科卒業演奏会』

普通科・音楽科合同クラスになってから、普通科の生徒、卒業生、先生方の来場が増え続け、幸せ共有度が更にアップ。ソロ演奏に加え、生徒のアレンジによるアンサンブル、師弟共演もプログラムに組まれるようになりました。



20年の 変化と挑戦

英数科

2006～08 | 卒業学年(19期～21期生)

これまでの英数科は、部活動も行事も控えめにとにかく学習学習学習…の風潮でした。世間の勉強ばかりできても…の声に後押しされ、このころから勉強にも行事にも頑張る英数科に変わってきました。部活動をやってから居残り自主学习にも参加するスタイルが定着しました。



高等部が2006年に設立したために英数科の人数が減少し、クラス数も減りました。人数が少ないからこそできる面倒見の良い英数科の教育が目立つようになりました。

した。このころ居残り学習の時間に〇〇先生塾という質問コーナーがありました。



渥美夜間歩行を歩いた最後の世代です。最後まで粘る精神力と友達との絆を培いました。



体育祭に向けて朝練をするほど努力しました。その結果、総合優勝を飾った年もありました。

2009～11 | 卒業学年(22期～24期生)

部活や行事と進路の両立を目指して頑張っていた英数科ですが、その両立に悩む生徒も少なからず存在しました。進路のために学習はしなくてはならないし、やれって言われるけれど、でも！行事も楽しみたいし、部活も精いっぱい参加したい！と試行錯誤していました。



渥美夜間歩行の代わりに行われるようになった江比間勉強合宿。この合宿所は記念誌が出版される頃には閉館となってしまいますが、保護者の方に作ってもらったおいしいご飯を楽しみに、ひたすら学習するという合宿はつらいけれど楽しいものでした。



北海道への修学旅行はこの世代が最後となりました。世界遺産の知床方面へと足を延ばした旅行が思い出深いものとなっている生徒もいるのではないかと思います。

2012～14 | 卒業学年(25期～27期生)

大学入試がどんどん多彩となってきました。学力だけを評価するのではなく、それ以外を評価する大学入試がどんどん広がり始めました。このあたりから、一般入試だけの英数科から、様々な入試を上手に利用する英数科へと変化し始めます。ただ、当時はやはり一般入試が大半を占めました。



学習よりも前に、その学問に興味を持ってもらうこと。様々な出会いの機会を設けようと思った「知との出会い」の様子です。当初は父母や卒業生に協力を仰ぎ、なるには講座を行ったり、父母にご飯を作ってもらったりして、1年生で初めて進路を考える行事でした。



平和の火の灯る桜丘にいたのだから英数科でも平和教育をもっといいものにしよう。特に、戦後70年が経ち、生きている証言者から話を聞く機会を逃してはならないという思いから始まった九州修学旅行。

2015～17 | 卒業学年(28期～30期生)

社会で役立つ人を育てたいとの思いより、知識だけではなく、テストで測れない見えない学力をつけることが目標となりました。総合の時間を活用したり、文章を書く練習をしたりするようになりました。多様化する大学入試では、少しずつ勉強を頑張る英数科生でも総合入試や推薦入試に挑戦するようになりました。



九州修学旅行が、2016年の熊本地震の影響で広島修学旅行に変更になりました。広島になっても平和を考えさせるきっかけにするのは同じです。広島のと四国にわたり、道後温泉などに行きました。



英数科集会で3学年が集まり、それぞれの健闘を称えたり、大学進学という共通の目的に向けて意識を高めあったりするようになりました。



このころから少しずつICTの利用が活発化してきました。プロジェクターを利用した授業が多くなりました。

2018～20 | 卒業学年(31期～33期生)

見えない学力の養成の一環でインターンシップを導入しました。また、大学を知ってもらおうと進路探求と銘打って様々な大学へ見学に行くようになりました。ですが、コロナウィルスの影響で、そういった行事がほとんど中止となった時期でもありました。ただ、英数科は少人数なのが功を奏し、修学旅行だけは一度も欠かさず行くことができています。



インターンシップの様子です。初めて体験する仕事に生徒たちは四苦八苦。でも、楽しそうです。



入学直後にオリエンテーション合宿に行っていました。現在も同様の趣旨の行事はありますが、コロナ禍前までは1泊していました。



コロナ禍で行った沖縄修学旅行。9月に行くはずが翌年の3月になりました。マスクが手放せない旅行だったし、制限も多かったし、空港もホテルもガラガラでした。それでも、できることを選んで、楽しんだ修学旅行でした。

2021～23 | 卒業学年(34期～36期生)

コロナ禍で一気にICT利用がすすみ、環境も整備され、そういったものを利用した授業や取り組みが増加してきました。また、入試もさらに多様化が進み、英数科の生徒も高校で頑張った様々な事柄をアピールして受験に臨むようになってきました。しかし、今でも、半分以上が勉強を頑張ったことを強みにするのは変わりありません。



進路探求プログラムと称して、様々な大学にオリジナルプログラムを組んでもらっての大学見学へと行っています。実際に行ってみないとわからない雰囲気や授業や学食の体験に生徒はプチ大学生気分を味わえます。



居残りが3部制になりました。今までの2部制では集中が切れてしまったり、部活動から戻ってきた参加が上手にできなかったりすることが解消されました。



沖縄修学旅行も7回を数え、その中での興南高校との交流も5回目となりました。毎年、少しずつ交流の方法は違いますが、風土のちがう高校生同志の交流は良い刺激となっています。平和教育に加え、充実した行事となっています。



20年の 変化と挑戦

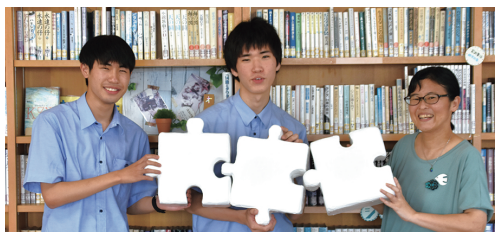
高等部

2006年創設

普通科一貫コース（通称：高等部）



「志を持ったゼネラリストを目指して」この言葉を合言葉にスタートした普通科一貫コース。桜丘中学校の教育で培った力を土台に、高校でさらにその力を伸ばし、様々なことに「挑戦」をしてきた。正解のない問題の答えを考えるのは難しい。しかし、だからこそ、その問いに取り組む。まさに、挑戦！



Find Your Pieces「人生は壮大なパズルのよう。悩み、考え、選び、学び、そして一歩ずつ進んでいく。一貫コースでは、あなただけのピースを見つけ出し、時には創り出し、あなただけの絵を完成させることができます。一緒に、探してみませんか。」（中学生向け広報誌掲載文章より）



「考える」ために調べたことは、主体的に学んだことであり、理解がしやすく、記憶にも残りやすい。学んだことを単なる知識で終わらせるのではなく、使える知識へ。考え、調べる中で自分に合った未来が見つかることも。

オーストラリア語学研修

実感する文化の違い



高等部を象徴する行事のひとつでもある、オーストラリア語学研修旅行。実施3年目からは、クイーンズランド州にあるCaloundra Christian College（以下CalCC）にて実施。滞在中はホームステイをし、現地の家庭で日常生活を送りながらCalCCに通学。雄大な自然に驚き、現地の生活のリズムや、考え方の違いに戸惑いながらも視野を広げた。



現地校では、バディの子と一緒に授業を受けることも。遠足では、思いっきりオーストラリアを楽しんだ。



楽しいことばかりではない。時にカルチャーショックを受けながら、3～4週間を乗り切り、自信をつけた。



親元から離れ、異国の地で過ごす時間は、自分自身をみつめ、将来について考える機会にもなった。



知識として知っていたことも、実際に体験すると驚きの連続。自分の目で見える大切さを身をもって感じた。

国際貢献活動

自分の目で確かめる世界



1 年次前期総合学習（探究活動）では、東南アジアで起きている問題に目を向ける。発展途上国における貧困や差別の現状を学び、貧困解消や経済的自立を促すための解決策を考え、具体的なアクションプランを作成。プログラムスタート時は、NGO団体としてどんな支援が出来るかを考えてきたが、現在は、企業として何が出来るかを考えたプロジェクトを考え、発表している。



コロナ禍前までは毎年夏休みに、希望者を対象としたフィリピンでのスタディツアーを実施。環境 NGO イカオ・アコの協力のもと、14回にわたるツアーで合計 175 名の生徒が参加。延べ 61,100 本のマングローブを植樹した。



授業で学んだ国際貢献を身をもって体験。国際的な視野を広げ、環境保護の重要性を実感する機会となった。



両国の人々が手を取り合うこの活動は、平和の尊さと自然との共生の大切さも育んできた。

新たな挑戦 | 出来ることを探す

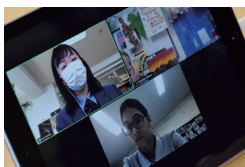
当たり前のことが、当たり前ではないと気付かされたコロナウィルス蔓延時期。高等部の特色でもあった海外研修は、当然実施見送りとなり、協同作業や日常の活動にも多くの制限が課せられた。しかしながら、そこであきらめるのではなく「『今』挑戦できることはないか」「今だから出来ること」気持ちを切り替え、前に突き進んだ。そこからまた、新しい道が生まれた。



海外語学研修旅行の代わりに国内修学旅行を実施。「視野を広げられる旅」をテーマに生徒に提案してもらった。



バスに長時間揺られ、自分たちで決めた場所に。訪問地では、高校生の団体旅行客が来てくれたことが喜ばれた。



オーストラリアに行けない代わりに、現地の生徒と一緒にオンラインで授業に参加。動物園とつないでフィールドワーク。



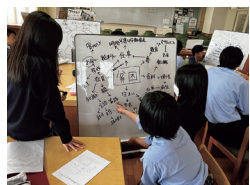
コロナ禍の挑戦をきっかけに、その後、中国語の授業やシンガポール研修旅行（異文化共生）が実現した。

企業探究プログラム | 社会に目を向ける

1 年次後期総合学習（探究活動）において、創設期より企業探究プログラムを実施。これは、実在する企業でのインターンシップを教室で体験しながら、企業活動への理解を深めるというキャリアプログラムである。その集大成として、各企業から出されたミッションに対し、グループで自分たちなりのアイデアをつなぎ合わせ、企画を作り、プレゼンテーションを作成。学内発表会はもちろんのこと、QUEST CUPという全国大会出場を目指し、毎年挑戦し続け、輝かしい結果を残してきた。



19年間で延べ26チームが全国大会に出場。企業賞や準企業賞、グランプリを受賞したチームも誕生した。



アイデアを出すのは容易ではない。グループで調べ、ひたすら話し合った。



このプログラムを足掛かりとし、2 年次以降もビジネスアイデアコンテストなど、積極的にプレゼンテーションコンテストに挑戦した。



相手を説得するためには、根拠となるデータも必要。聞き手にいかにして伝えるか。試行錯誤の連続。

地域と世界とつながる | 未来へ

高等部では、カリキュラムの枠を超え、有志生徒を中心に、様々なコンテストに挑戦してきた。これらの活動は、コンテストの応募だけが目的ではない。その思いを実際に形にし、地域とつながる。現在は地域の問題でもある、多文化共生の推進、特に日本人とブラジル人住民の交流促進を目指している。そして、この活動の思いを多くの方に届けるため、プロジェクト内で考案した「豊橋ムケッカ」の製品化にも取り掛かる。挑戦はまだ続く。



地元企業と連携したプロジェクトを実施。その一つとして、児童養護施設の子供たちを招待し、ハロウィン電車を走らせた。



2022年、有志生徒で立ち上げた「豊橋ムケッカ」プロジェクト。その後、この活動は後輩たちへと受け継がれた。



「豊橋ムケッカ」とは、ブラジル郷土料理「ムケッカ（海鮮シチュー）」を豊橋市の特産品である「うずら卵」や「大葉」でアレンジしたもの。



「多文化共生の街づくり」を理念に掲げ、豊橋ムケッカの販売や、ブラジル人学校カンティニョとの交流会などを行った。



30周年を
迎えています

中学校

桜丘中学校のあゆみ

30周年記念式典 2022年9月22日 穂の国とよはし芸術劇場PLAT主ホール

～桜丘中学校の理念「かしこさ・やさしさ・つよさ」～ | 30周年記念式典スライド
「中学30年のあゆみ」より抜粋

桜丘中学教育で大切にしてきたもの、それは教科教育にとどまらず、社会に出て役立つ「生きる力」を身につけることです。それは創立者から受け継がれてきた桜丘学園の伝統でもあります。その精神は桜丘中学の「総合学習」のような特色教育に結び付いています。



自己実現・社会貢献のための学力

自然環境をテーマにした学習は開校以来実施している体験型学習です。この学びを通して、自然の中に生きる私たち人間の身の回りの環境とどう「共生」していくのかを問い続けています。

英語教育と国際理解教育

「東三河の小さな中高一貫校から真の国際人を育てたい!」という強い思いは30年間変わらず、ここにしかないユニークな教育活動を目指してきました。

総合学習(LA)「表現活動」「ミュージカル」

「表現教育」を通してありのままの自分自身を表現する活動を続けています。桜丘中学校5階ホールは、子どもたちが活き活きと自分を出せる場所です。3年間のミュージカルを通じてみんなで舞台を創り上げることで得られる達成感、自己肯定感を高めるとともに他者を受け入れる寛容性を育みます。そして、社会に出て必要となる自主性や協働性、コミュニケーション能力につながっています。開校より校内で発表していた形態を2005年から市民文化会館に、2015年から穂の国芸術劇場PLATに移し、発展させてきました。



様々な個性に出会い、真正面から向かい合う。感情に向かい合い、互いに成長していく。桜丘中学校で過ごした経験、そこで動いた感情が基盤となり、その後の進路や将来の夢につながっていきます。

だれもが、いつでも帰って来られる場所。桜丘中学校はこれからも永遠の母校であり続けます。

中学校生徒会長挨拶（抜粋）



桜丘中学校生徒会長
藤原志帆

私たちは、新型コロナウイルスにより、入学してからずっとマスク生活です。同級生でもお互いの顔を正確にはわからないまま3年間を過ごしてきました。お弁当の時間は前を向いて黙食。みんなで机を寄せ合っておしゃべりしながら食べたことがありません。お互いの表情がわからず、互いの距離感をはかるのに一層時間がかかったように思います。だから初めのうちはよく考えずに、心にもない言葉で友達を傷つけたりしてしまうこともありました。

そんな、大人でも子どもでもない思春期の難しさや大変さは、今も昔も変わりません。でも桜丘中学校の、生徒と先生方との距離の近さもずっと変わりません。生徒を全力で支えてくれる先生方や家族とともに桜丘中学校の一つ一つの行事や日常を経験するなかで、私たちは人を思いやり、相手の立場に立って考えて行動することができる人間に成長してきました。これは桜丘中学校が大切にしてきた、ずっと変わらないものではないでしょうか。

30年で桜丘中学校の制服やルール、行事は変化してきました。マスクの有無も今とは違います。でも桜丘中学校は時代の変化に柔軟に対応してきました。その中でこれまで先輩方がずっと継続してこられたミュージカル。私たち28期生のミュージカルもまた、家族に支えられ、先生方と力を合わせて作り上げてきました。テーマは『夢を叶えるのはいつだって自分しだいだ』。自分の夢を自分で決め、目標に向かって全力で走り続けたいという思いを込めました。



30周年記念ミュージカル

『Junior High School Musical～夢を叶えるのはいつだって自分しだいだ』

桜丘中学校の総合学習L.A.(リベラルアーツ)で伝えてきたこと

<1年次前期>環境学

桜丘中学校では1993年の中学校再開当初から「総合的な学習（探究）の時間」において自然環境学習に取り組んできました。それは、自然環境の保全や自然との共生を考えることを目標に、体験型学習を柱として地域の自然を環境学習の場とすることで進めてきました。その過程で2015年、ユネスコでSDGs（持続可能な開発目標）が定められました。これを機に生徒たちは地域の枠を超えて地球規模の環境問題に目を向け、探究する力を身につけてきました。現在は、特に地域の身近な環境問題に焦点を当てた探究活動を行っています。各チームで環境問題をテーマに選定し、実験やフィールドワーク、現地調査、文献調査等を通じてデータの収集や分析、専門家への聞き取り等を行い、課題解決に向けた提案を行っています。研究発表では、チームでの協働作業や意見交換を通じて多様な視点を取り入れながら解決策を考えプレゼンテーションをしています。仲間の提案や他のチームの発表を聴くことで自身の視野を広げ、探究心をさらに深めることができます。この取り組みを通じて環境問題への理解を深めるとともにプレゼンテーション能力やマネジメント能力を養うなど主体的・対話的で深い学びが期待されます。



<2年次前期>異文化理解学

あらゆる情報が瞬時に世界中を駆け巡り、国境という壁がますます低くなっているグローバル時代において、異文化を理解し、積極的に交流しようとする姿勢が大切になっています。「異文化を受容するなかで国際感覚を養う」、「自国の文化を尊重する」ことのできる主体的に生きる資質・能力を育むことができるよう授業を位置づけてきました。授業では、国際的に様々なフィールドで活躍している方々、また地元の留学生などを講師として招き、その国の歴史や文化についての理解を深め、体験や学びから「疑問」「課題」「解決案」について学びます。

<1・2年次後期、3年次前期>人間関係学

I期生より土曜科で取り組まれていたミュージカル制作は、9期生より総合学習の授業となりました。そしてII期生から3年次の校外公演がスタートし、時代のニーズに沿った授業が出来る様「人間関係学」と名称が変わりました。授業では、ミュージカルの舞台表現にも活用できる「非言語コミュニケーションワーク」を用いて、非言語的な動きから何を伝えたいのか読み取る練習を行います。相手を理解する上でもとても大切であると同時に、自分自身の安心安全の場が増えることにも繋がります。また、成長段階において思春期真只中の中学生の脳は理性と感情がまだアンバランスです。そこで「脳の栄養素」と言われる感覚を整えていく「誰でも簡単に楽しくできる運動」を取り入れています。そして集団でなにかを行うときに重要なのは、「I+I」を2以上にすることです。実行委員を中心に、「言語コミュニケーションワーク」を用いて、自由に発言出来ることで発想が広がり自分の頭で考え発言する力を養います。その他、様々なワークやゲーム、運動を行っていくうちに、自分と他者との違いに気づきはじめます。そして徐々に自己肯定感が高まった3年次の校外公演では、笑顔と涙の達成感で毎年それぞれの成功体験と繋がってくれています。



<3年次後期>社会の中の自己探求

3年次後期総合学習は、1995年に生徒の個性あふれる卒業制作発表という形で始まりました。作詞作曲をし、服を製作する生徒。歌や詩を披露する生徒。難しい縄とびの技をグループで発表した生徒。自分史を作成する生徒と、中学3年間で様々な表現で表しました。そして卒業論文という形に変化をし、個性を表現しました。2015年よりNPO法人アスクネットさんのご支援のもと「企業探求プログラム」を導入しました。実在する企業10数社を班別に訪問して聞き取り調査をおこない、その企業の方も招いて報告会を開きました。その仕事の魅力と抱える課題、その解決策を自分ごととして考えるキャリア教育を進めてきました。2022年度より、企業探求プログラムは継続しつつ、「社会を知り、自分と向き合い、自分の未来像を考える」ための個人発表会を開催しています。I人I人が自分と向き合い、中学での学びを通して未来への希望を表明する姿に、仲間や保護者、教師は胸を熱くしています。



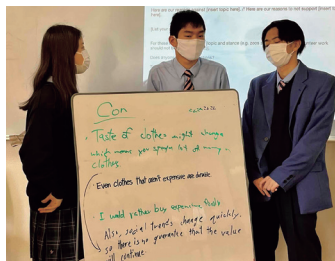
桜丘中学から 広がる学び

中学校



英語教育の歩みと未来への展望

桜丘中学校では、2003年に中高一貫コースをスタートし、2006年には初めて高校生（高等部）を迎え入れるという新たな段階を迎えた。この中高一貫教育において、特に力を注いできたのが英語教育である。当時を振り返ると、「大学入試のためだけでなく、英語を実際に使いこなせる力をどう育むか」「国際社会で活躍できる人材をどう育てるか」といった課題に向き合い、教員同士で議論を重ねる日々だった。その中で数々のアイデアを形にし、今につながる取り組みが生まれた。



ニュージーランドホームステイ | 1998年～

中学校の夏期語学研修先として1998年からニュージーランドホームステイが始まった。コロナ禍での中止を余儀なくされた数年間を除いて、毎年、南島にあるカイコライバレー校に生徒を送り続けており生徒たちにとって自身の英語力を試し、異文化を体験するいい機会となっている。桜丘高校も含めて長短期のホームステイにこれまで約600名を超える生徒たちがこの交換留学に参加した。

校内留学プログラム「国際体験DAY」 | 2006年～

2006年には、月に一度の「国際体験 DAY」をスタートした。これは、世界各国から講師を招き、その国の料理やスポーツ、遊びなどを通じて英語を学ぶプログラムである。この取り組みは現在も続いており、これまでに50カ国以上の講師を迎えた。

オーストラリアホームステイ | 2007年～

2007年からは高校2年生全員を対象に、オーストラリアでの1カ月間のホームステイを実施している。当初は州立高校への派遣から始まったが、2009年以降は私立のカランドラクリスチャンカレッジとの提携により相互のホームステイプログラムに展開した。これまでに350名を超える生徒が参加し、中高6年間の英語教育の集大成として大きな成果を上げている。

日常に英語を取り入れる取り組み | 2014年～

2014年には「イングリッシュシャワー」を導入した。このプログラムでは、中学生全員が毎朝10分間、英語の校内放送を聞いている。ネイティブと日本人英語教員が生徒にとって身近な話題を取り上げ、英語で話すことにしている。その後、ワークシートを使ったQ&Aで理解を深めている。中1当初は25%程度の聞き取り能力が、中学3年生になる頃には75%にまで向上したというアンケート結果も得られている。

「英語ハイグレードコース」の設置 | 2020年～

2020年にはAnni Global Educationとの業務提携により、「英語ハイグレードコース」を中学校に新設した。英語に秀でた生徒を対象とし週6時間の授業を全て英語で行い、4技能5領域の向上を目指している。特に英語でのプレゼンテーションに力を入れ、iPadを活用して年間20本以上のプレゼンを制作・発表するなど、実践的なスキルを育てている。その結果、英語ハイグレードコースを終えた約6割の生徒たちが英検2級以上を取得している。

未来へ向けた挑戦

2024年からは入学試験に英語を加え、さらなる英語教育の充実を図っている。さらに、DMM英会話やオンラインリーディングを活用した個別学習や、八町小学校のイマージョンクラスからの入学生を迎え入れるなど、多様な取り組みを進めている。そして、国際化が進む現代社会において、桜丘中学校は、世界のどこにいても自分の力を発揮でき、多様な価値観を受け入れながら自分の言葉で発信できるグローバル人材の育成を目指している。これからも積極的な英語教育の推進により、新たな可能性を切り開いていく。

テーマ性のある修学旅行や校外学習で生徒とともに学ぶ

～修学旅行・平和旅行・環境旅行の挑戦・進歩・変化～

1998 年から「語学研修旅行」という意味で海外修学旅行が始まり、近隣諸国の中学生と交流する中で相互理解を深めた。コロナ禍では国内修学旅行を実施。九州で戦争講話、戦争遺構から学び、平和について考え、東北で震災遺構を目の当たりにし、被災地での人との触れ合いを通じて防災、減災について考えた。さらに小笠原の大自然の中で今まで味わったことのない解放感を体験した。夏休みや冬休みの広島・長崎・沖縄平和旅行、釧路環境旅行など多彩な経験が学びと成長の場となり、生徒と教師それぞれの価値観を広げている。



～韓国・中国(南京)・台湾・九州・東北・小笠原・広島・長崎・沖縄・釧路～

この20年を振り返って ～これからの桜丘中学に期待する事～

元桜丘中学校 校長 飯田祐二



平成に再校した桜丘中学もこの20年で地域の方たちのご理解、ご協力により三河の地にしっかりと根を下ろすことができました。ここ数年コロナをはじめ予期せぬことが起こりました。教育現場も多くの混乱を招きましたが「できないではなく、何ができるのか」の方針で教職員一同は生徒たちに向き合ってきました。社会の価値観も大きく変わりました。こうした予測できない未来を迎える子供たちのために強いこころの成長を願い、どの学校よりも多くの充実した体験学習を組み入れた教育を実践しています。今また働き方改革なる政策のもと現場教育の在りようが大きな転換期を迎えています。桜丘中学教育のDNAを受け継いだ教師たちは今後も前向きな姿勢を崩さず子供たちと充実した学校生活を送ってほしいと思います。

「すべては生徒の幸せのために」
地域に求められる学校であって欲しいと願います。

元桜丘中学校 教頭 岡本賀生



今から20年前、中学再開（1993年）から10年目が過ぎたときのこと、思い出すのは、二度の閉校を経て中学の再開を大変喜んでくれた元理事長（英一氏・当時前理事長に交代していました）の姿です。私はその年から校務の一翼を担う立場になり、責任の重さを感じていました。再開した中学が二度と閉校することがないように教職員一丸となって教育作りをして行かなくてはと強く思ったことも強く脳裏に焼き付いています。

この20年間「面倒見のいい教育」をスローガンに、挑戦と進歩の連続でした。時代の変化に伴い、生徒たちの価値観や社会的な課題も多様化する中で、学びの多様性を取り入れ、生徒一人ひとりに寄り添う教育を実現しようと先生方と協議しながら努めてきました。教育をとりまく社会や環境は常に変化しますが、柔軟性を持ってさらに生徒たちがよりよく成長するため、私学桜丘中学が特色ある教育づくりにさらに挑戦し続けることを期待します。



20年の 変化と挑戦

部活動

部活動の発展と充実

この20年は、部活躍進の20年だった。以前から強豪校を抱える桜丘だが、集団競技の活性化により、学校全体を活気づける原動力となった。明るい挨拶、礼儀正しい笑顔の面、またクラス運営においても活躍して盛り上げてくれる。ここでは、この20年間で誕生した部活、より充実してきた部活の5つの部活動について紹介させていただく。

ダンス部



筆頭なのが棚橋大介先生率いるダンス部。世界大会4連覇、文部科学大臣賞5度受賞という前人未到の実績をもち、そのパフォーマンスを一度見た中学生は「ガチで、かっこいい!」「私もあんな風に輝きたい!」と憧れに変わることが多い。その人気は凄まじく、毎年、県内はもちろん、県外からも志望者が現れ、多くの中学生がダンス部の門を叩く。

ただそれだけのパフォーマンスができるのは、日々の充実した練習があるからだ。

ある日の授業後、食堂は多くの部員によって、移動式の大きな鏡やマットが準備され、一瞬にして、ダンススタジオと変貌を遂げる。しばらくすると「えい!」という気合の入った声が響き渡り、一気に食堂は部員の迫力で満たされる。

「昨日の自分をこえろ!」

棚橋先生の口癖である。この言葉に象徴されるように、ダンス部の練習は少しの緩みも許されない。レギュラーメンバーでさえ、一定の踊りができればいいのではない。常に向上心をもたなければ、棚橋先生からの鋭い指摘が入る。その厳しさが、自分を成長させると、部員全員が理解している。

集大成となる3年生の自主公演。ダンスのパフォーマンスが圧倒的で瞬きをするのを忘れそうだ…。そして、ラストも印象的。卒部する3年生のほとんどが目を赤くする。あの姿を見れば、いかに濃い3年間であったのかが伝わってくる。学園祭で出演となれば、体育館は大行列。自主公演となれば、一瞬でチケットが完売。このような部活が他にあるだろうか。

バスケットボール部



全国的にも名前が通っている「Pink devils (ピンクデビルズ)」(桜丘男子バスケットボール部のことを指す総称)。過去、インターハイ準優勝、ウインターカップ第3位と全国大会出場の常連校である。桜色のユニホームが印象的なチーム。江崎悟先生から受け継ぎ、現在は水越悠太先生が監督を務める。

「地元の選手を中心に育てたい」

全国常連の学校は実績のある中学生を他県からも多く勧誘するが、桜丘はポリシーがある。ただでさえ、全国常連となれば、怪我と隣り合わせになるほど追い込むが、桜丘はその分、より練習は長く、厳しい。水越監督の目標はシンプル。部員に「最高の景色」を見せたい。

夜の遅く、静かになった学校の体育館から水越監督の「いけいけ〜!」という熱のある声が聞こえたなと思った次の瞬間「ダムッ!ダムッ!」とボールの音と「キュキュキュ!」とバスケットシューズの音が聞こえてくる。監督、部員が多くの汗を流していることを仲間の教員も知っている。それだけに、職員朝礼でライバル校に勝ったときの報告には「おお〜!」とどよめき、鳴り止まない拍手と多くの賛辞が送られるのだ。

サッカー部

「人間性がないと、勝てないし、成長もしない!」
サッカー部の顧問である竹内友誠先生は部員に何度も伝える。現在、部員が 80 名を超え、大人気部活のサッカー部、技術指導の前にまず人間的な成長を促す。練習中、少しでも態度の悪い部員がいれば、竹内先生は見逃さない。

「その態度はなんだ!」傲慢な態度には瞬時に厳しい喝が入る。良い意味で、そこは絶対に譲らない。礼儀正しく、かつ謙虚でなくてはならない。



おかげで、戦えるチームと化していく。まさに指導の賜物である。中学生の頃、実績の高い部員はほぼいないが、その謙虚な姿勢、人間性のおかげで、成長が著しく、地元の公立高校と比べると、確実に頭一つ抜けた強さと人気がある。

顧問の指導力もさることながら、人間的な魅力も大きい。「将来は竹内先生のような教師になりたいです」こんな部員も出るほどだ…。

和太鼓部

「時間のある限り、ご依頼はすべて受けます!」と意気込むのは和太鼓部。顧問は山口憧士先生と熊谷信一郎先生。年間 60 件を超える依頼があり、地域に愛され、まさに引っ張りだこ。気候の良い初夏や秋は、行事やお祭りも多くなり、毎週土日の依頼演奏はあたりまえ。ダブルヘッダーで 2 チームに分かれての演奏や午



前・午後のハシゴ演奏になることもあるほどだ。忙しくなっても受ける理由は「応援してくれる方への感謝」の念から。その気持ちから毎年夏に行われている自主公演は入場無料を貫いている。

年 1 回の県大会にもこだわっていた。しかし、愛知県は強豪校が複数あるために、全国大会への切符を掴むのが非常に難しい。昨年度、朗報が届く。諦めず、毎年試行錯誤を重ねた和太鼓部は、組曲「長篠」で強豪校を上回り、見事、創部初の全国出場を果たした。まさに人気、実力を兼ね備えた部活動である。

生物部

ちびっ子にも大人気の生物部。顧問は鈴木順久先生。生物部の部室はミニ動物園。ハリネズミやヘビ、スッポンモドキまでさまざまな種類の生き物がいる。それらを見ているだけでも面白くて、時間を忘れてそんな空間。長期休みには合宿をして、自然あふれる場所に行っては、普段見られない生き物と出会う。



そんな充実している生物部だからこそ、和太鼓部同様に地域からも声がかかり「うちのイベントに桜丘の生物部としてブースを出してもらえないか?」と依頼が多く届く。そのイベントで、ちびっ子たちがゲーム機から離れ、生き物を触りながら夢中になり、時間を忘れてしまい、保護者の方から「そろそろ帰るよ!」と言われている姿があった。「ご参加、ありがとうございました!」生物部員の顔が、なんだか誇らしかった。

20年の 変化と挑戦

生徒会

いつの時代も、生徒の「やりたい」に向き合う

2005年から2025年のこの20年間で、生徒や学校、教師を取り巻く環境は大きく変わった。私はこの20年のうち、10年ほど自主活動の担当者として、生徒会や学園祭、学校行事に携わってきたので、この変化を強く感じている。

人殺し以外なんでもやれ！の時代から

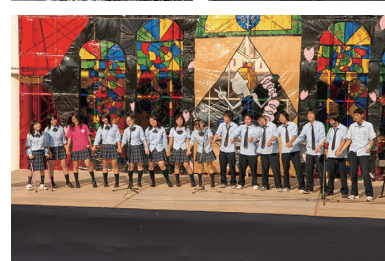
1990年代、学園祭の生徒実行委員会で教師が生徒に投げかけた「人殺し以外は何でもやれ！」というかなり刺激的な言葉。この言葉の本意は、「生徒に何かひとつ本気で向き合わせるものを作らせたい。最後まで一つのことをやりきらせて達成感を感じさせたい。そこから誇りの持てる学校にしよう」というものであった。学園祭を改革することで、良い学校をつくらうとする「学校づくり」「教育づくり」の一環だった。その言葉や先生方の熱い思いを受け、多くの生徒が学園祭を通じてエネルギーを爆発させた。あれから時は流れ、そんな生徒の気持ちに火をつける言葉でさえも言いにくい世の中になった。生徒の帰宅時間の見直しや企画の内容の再考、周辺地域への配慮などが求められるようになった。これは当たり前といえば当たりの話。今となっては、今までよくこれが許されてきたと思う程だ。

私には学園祭で忘れられない場面がある。BIG企画の「網絵」を担当した2003年、学園祭2日目の21時過ぎ。部局の生徒だけでは作業が追いつかず途方に暮れていた。意を決して、全校放送をかけ、校内にいる生徒に助けを求めた。その直後から、校舎のいたるところから生徒がわらわらと湧いてきて、第二体育館に70、80人の生徒が集まった。部局長の指示を聞き黙々と作業をする名前も知らない生徒たち。「先生もがんばってるね。風邪ひかんでよ」という男子生徒の言葉に涙が出た。企画を成功させるために、生徒も教師もなくまさにチーム一丸だったあの頃。学園祭に関してのルールもなく、常に生徒に振り回されて、めちゃくちゃで、でたらめだったあの頃。現在では学園祭直前でも、21時には生徒の完全撤収が守られている。校内は美化が保たれ、授業も滞りなく行われている。あの頃も今も、どちらも正解。

学園祭は生徒の「やりたい」を応援する場所、仲間を認め合う場所

学園祭は常に、生徒の「やりたい」を応援する場所である。生徒が温泉を掘りたいといえば、知り合いのつてをたどって、協力してくれる人を探し回った。長野県の大龍村で「おれはバカな奴が好きだからよ」と言ってくれる大人に出会い、村の全面協力の元、学園祭当日はタンクローリーで「おきよめの湯」から温泉を持ってきた。観光協会ともタイアップし物産展を行った。生徒も教師も父母も、そして市民を巻き込んだのまさに「おまつり」だった。

また、学園祭は仲間を認め合う場所でもある。2014年の学園祭での出来事。台風のため屋外での後夜祭が中止になった。暴風警報が出る前に時間を繰り上げ、体育館で後夜祭を開催し、生徒会役員が参加した生徒に涙ながらにお礼を言った。代休明けの昼休み、生徒会にサプライズが仕掛けられた。「生徒会がありがとうっていうのはおかしい。お礼を言うのは俺たちの方だ」と、3年生の生徒が中心となり行われた昼休みの集会。100人以上の生徒がピロティーに集まり、自分たちの手で集会を行った。最後は生徒会長の胴上げで締めくくられ、今まで見た後夜祭の中で、最も印象深いものになった。学園祭をみんなで盛り上げる、仲間の健闘を称える、そんな気持ちがビシビシと伝わってきた瞬間だった。





もっといい学校に

時代の流れとともに生徒層も大きく変わった。現在はまさに正統派の生徒会。朝の正門前でのあいさつ運動に始まり、学校美化や校則についての話し合い、生徒総会での議案の提出や、防災や助成金活動の学習会の実施など、幅広く活動している。それだけにとどまらず、SDGsや地球環境問題など世界的な課題についても受け止め、前のめりに行動している。大人の側の背筋が伸びるほどだ。しかしベースにある「桜丘が好きだ、もっといい学校にしたい」という想いは今も昔も変わらない。

生徒会、自主活動、課外活動、特別活動、特色教育…。時代とともに、活動の名称や活動自体も少しずつ変化している。しかし、変わらないものもある。それはいつの時代も、生徒の「やりたい」に真剣に向き合う教師がいるということ。正解がない中で、迷いながら、葛藤しながら、その時にできる最大限で生徒と向き合う教師の奮闘があるということ。これは、現在にこの活動を繋げた教師の想いと奮闘があったということ。さらに、今も昔も、この活動を応援してくれる多くの先生、父母、市民がいて、その愛情と期待の中で、生徒たちが活躍し、世の中に希望の光を与えてくれているということ。私たちはこれを忘れてはいけないし、次の代にもつなげていかなければならない。



受け継がれる “支援のころ”

桜丘学園は雲仙普賢岳火災流、阪神淡路大震災、中越地震、岡崎大水害、東日本大震災、ネパール地震、熊本地震、大阪北部地震、長野県水害被害などのボランティア活動を実施してきました。その支援活動は、先輩から後輩へ、脈々と受け継がれ、「心と心の交流」の信念のもと、交流のある方々と未永い交流・支援活動を続けています。2024年1月1日に発生した能登半島地震においても、義援金を現地に届けるなど、今後も私たちができる震災支援を継続していきます。

阪神淡路大震災復興支援の継続

1995年1月17日午前5時46分に発生した阪神淡路大震災をきっかけに孤独死をなくしたいとの思いから、「孫便りの会」（現在豊橋東RCの支援を受けて桜丘学園孫便りIACとして活動）が発足しました。豊橋から神戸市中央区まで歩いて、仮設住宅に住んでいた被災者を励まし、文通を始めました。以来、60回以上の訪問を重ねています。現在は、主に孫便りの会の生徒たちが手紙を書いて交流を続け、毎年1月17日に豊橋駅で追悼集会を開くなどの活動を続けています。



神戸・谷村輝さん
仮設住宅での、孫便りの会の皆さんとの出会いから、今日までのお付き合いの数々が走馬灯のように過ぎ去って行きます。孫便りの会の皆さんの支援活動は、これからも続けるのでしようが、くれぐれも安全と健康の保持には、十二分の注意をされるように祈っています。仮設住宅で桜丘の皆さんと、20近くの日でお餅を搗いたのも、今では懐かしい思い出です。



東日本大震災復興支援の継続

2011年3月11日に東日本大震災が発生し、これまでにない震災を私たちは目の当たりにしました。東日本大震災から、これまでに現地へ29回の訪問を行い支援活動をしてきました。訪問地は主に気仙沼です。そして、この復興支援活動は、桜丘からの訪問だけでなく、現地からも学園祭にも足を運んでいただき、現地のサンマ等の海産物、また気仙沼ホルモンを販売してもらうなど、相互交流を続けてきました。復興支援活動を通して、気仙沼の方々と接し、子どもたちは自然と優しさを覚え、そして、将来の見本となる生き方を肌で感じてきました。



現在は、桜丘学園孫便りIACとして、年賀状を送るなどの手紙での交流、夏休みに実施する現地への訪問を続けています。これまでにずっと交流のある方々、たくさんの方々と会い、お話を聴かせていただき、現地の「生の声」をたくさん聴き、学んでいます。

震災当初から、生徒会・孫便りの会が中心となっており、募金活動、復興支援行動を続けてきました。募金活動はこれまでに150回を数えます。当時はがれき撤去、写真の洗浄。そして、海岸清掃、人手が足らなくなった畑の農作物・ゆずの収穫のお手伝い、仮設住宅への訪問など、支援の形を変えながら、支援活動を続けてきました。仮設住宅の訪問では、「季節の物を何か届けたい。」そんな思いから、豊橋からこいのぼりを持っていき、一緒に立てたり、また冬の現地支援では、仮設住宅でクリスマスツリーと一緒に飾り、クリスマス会を実施するなどし、交流を重ねてきました。そして、2021年3月には、現地の方も招き、豊橋版の「きずな祭り」を開催しました。

宮城県気仙沼市・村上かよさん（明海荘）
東日本大震災2011年よりご縁を頂戴し、14年が過ぎました。今でも孫便りの会（孫便りIAC）の生徒さんから結びある行動に大島で暮らす人達は、どれだけ笑顔と温かい気持ちを頂いたことでしょう。豊橋東RC様より手筒花火、桜丘和太鼓部の演奏会、何ととっても豊橋から気仙沼片道800kmの自転車走行「木と氣を繋ぐプロジェクト」は誰もが驚きます。我が娘、息子も桜丘高校で3年間大変お世話になりました。春・夏・冬休みと毎年続きましたボランティア活動は今でも語り継がれております。100年の歴史に、これより繋がります次世代の生徒皆様の成長に、東北より声援を送り続けます。

希望を失わず平和の意思を発信する平和のシンボルとして

はじめに

被爆60年から被爆80年へ、この20年間の「平和の塔」を中心とした桜丘の平和教育活動の成果と流れについて記録します。この20年間で、定期的な企画と情勢に呼応した画期的な活動が展開され定着し、生徒にも平和への意識が浸透してきています。それらの活動は桜丘だけのものではなく地域と連携しながら、平和への思いを共有・発信し、「平和教育の桜丘」として認められてきています。36年前に市民・地域の多大な協力で「原爆の火」を「平和のシンボル」として建立した目的・意味は、学校という教育機関で平和教育に活用すると同時に、核兵器・戦争のない平和な世界に向けて「私たちの平和への意思」を地域・未来に発信するということでした。「平和の塔」の建立は、地球上から残虐兵器である核兵器がなくなるまで「原爆の火」を平和の象徴として灯し続けるとしてスタートしました。（核兵器が廃絶されたら「火」を消すことになっています）学園創立80周年記念誌では、学校行事を中心とした記録でしたが、今回は学校行事と市民・地域との連携活動に焦点をあてて記録します。



市民・地域と共に取り組んでいる定期的な活動について

8月の原水爆禁止世界大会に向けた「平和行進」への参加(核廃絶を求める活動)

平和行進は1958年にはじまり今年で68回目。「平和の塔」建立された翌年から、多くの行進者の「原爆の火」が見たいという要望に応じてコースを変更し、桜丘の「平和の塔」の前でまとめの集会を開くことになりました。市民団体が「原爆の火」のサポーターである「原爆の火を灯す会」と一緒に生徒を含め全校で「平和行進を励ます集い」を全校で開催しています。毎年のことですが、平和行進参加者は、和太鼓部や吹奏楽部の歓迎演奏や高校生の発言に感動し、「日本にこんな学校があるんだ」と驚嘆しています。生徒は参加者から刺激を受け学び、行進者は高校生から励まされ元気をもらっています。

市民団体である「豊橋空襲を語りつく会」、「平和都市をめざす市民展」、地元被爆者団体である豊睦会・愛友会の企画参加など

毎年4月～6月に行われる企画に積極的に参加することで、生徒は学び、大人は励まされています。地元の戦争から学びながら、世界的視野から平和を考える機会となっています。

アフガニスタン・ベシャワール会との連帯し、「中村哲展」開催

地元の「ベシャワール」会の協力で「中村哲」を通して戦争をなくす方法を考察する企画

市民と連携した鑄型にはまらない創造的で画期的な主な企画

- 2009年 8月 「平和の塔」建立20周年企画として星野村からの「ピースサイクルリレー」実施
- 2011年 7月 第2回「原爆の火」全国サミット(東京)に参加し取り組み発表・交流(全国的注目)
- 2015年 9月 学園祭で「集団的自衛権の行使」を認める「安保法制」をめぐる市民シンポ開催
- 2016年10月 第3回「原爆の火」全国サミットに参加(長野県茅野市)桜丘の実践の典型になる
- 2017年 7月 国連で「核兵器禁止条約」が採択、ICANのノーベル平和賞受賞に声明文を出す
- 2019年 8月 「平和の塔」建立30年で星野村からの「ピースリレー900」実施
30周年記念式典、第4回「原爆の火」全国サミット、夕暮れコンサート開催
- 2020年11月 ペシャワール会・中村哲さん追悼集会と「中村哲展」の開催(毎年実施)
- 2021年 7月 漫画「戦争めし」7巻発売で桜丘の思いや活動が記載される
- 2022年 3月 ロシアのウクライナ侵攻に対して生徒議会にかけた「平和声明」を発信
- 2024年10月 「平和の塔」35周年記念企画「ピースキャンドル」実施、日本被団協のノーベル平和賞受賞に声明と日本被団協本部訪問
- 2025年 8月 学園創立100周年・戦後80年平和企画「18・LINE」実施
「ホシノニサクラガオカ宣言」18の残り火を線で結び世界に「平和」アピールする企画

以上、生徒を中心に据えて、地域社会のなかで平和組織と結び、互いに学び、平和の輪を広げていく活動を地道に行ってきました。これらの活動ができたのは学園の理解と協力、活動を支えてきた生徒平和委員会顧問(小林寿来先生)の創造力(挑戦心、行動力)です。また、活動を全校に広げるために定期的に発行されている平和通信「明日はきっといい日になる」は平和教育を推進するための貴重な教材・宝物となっています。

おわりに

平和の希求は人類共通の課題です。被爆・戦後80年、いまこの時点で人類は、「核の脅威」に晒されています。人類滅亡までを警鐘している「終末時計」の残り時間は過去最短の「89秒」となっています。戦後、核使用の恐れを瀬戸際で阻止できたのは、「原爆の火」を「恨みの火」から「平和の火」として灯し続けた被爆者を中心とした粘り強い献身的な反核運動があったからです。被爆者・日本被団協の証言活動は、核使用をタブーとする規範「核タブー」の確立に貢献してきましたが、核の危険が迫って、その「核タブー」が、崩れ落ちそうな状況のなかで、私たちはどう考え、どう行動しなければならないのでしょうか。「核兵器と人類は共存できない」というのは被爆者だけでなく人類共通の当たり前の声です。「核抑止論」を克服し戦争違法化、核廃絶、分断と差別など人道と人権をよりどころにした平和教育が人類を救う道です。平和な未来のために、「平和の塔」を平和のシンボルとして高く掲げ、希望を失わず、真の平和を創り出す主権者として責任を果たさなくてはならないと思います。

被爆・戦後80年

平和

核兵器が廃絶まで灯し続ける「原爆の火」

桜丘と助成金運動

公立高校に通う場合と私立高校に通う場合では、その学費に格差があります。この格差は日本においては50年以上前から存在しており、他の先進諸国の多くはこのような学費の格差はありません。また、日本でも病院や鉄道など公私の別によってその利用料が変わることはありません。教育においてこのような公私の格差が存在することは、「自由に学校を選ぶことができる」という子どもたちの教育を受ける権利を妨げるものになってしまっています。そのため私たちは長年に渡り、この公私格差を是正するため、国や地方公共団体への働きかけを続けてきました。これを助成金運動と呼びます。近年の桜丘においては請願署名と式典の開催が二つの大きな運動の柱となっています。

署名

“署名”、これは桜丘の文化と言っても過言ではありません。“全国私学夏季研究集会”（全私研と言われている全国から私学の教師や父母が集まり研修を行う会）に参加すると、知らない方から「みなさんがあの桜丘の方たちなんですね。どうやってあんなにも署名を集めることができるんですか。」こんな言葉をかけられます。桜丘は「日本一署名を集める学校だ」ということを耳にしたことがあるかもしれませんが、これは誇張ではなく事実なのです。かつて、国に対する署名が全国で700万筆集まっていました。そのうち400万筆を愛知県全体で集めていました。（愛知県は全国の中でこういった運動が最も盛んに行われている県です）そして、400万筆のうち、50万筆を桜丘一校で集めていました。（桜丘一校より他県の県全体の署名数の方が少ないところもあるぐらいです）全国の私学の関係者がそのことを知っていて、上記のような声かけて下さるわけです。署名の時期になると、職場で書いてもらったり、子どもの習い事で他の親御さんに書いてもらったり、

ご近所さんを回ったり、知人に郵送したり、「もうこの時期が来たのね」と、いろいろなところで署名が飛び交います。在校生の父母だけでなく、卒業生の父母にも協力してもらってきました。生徒会を中心とする子どもたちも学習会をしたり、街頭署名をしたりしてきました。桜丘の署名活動は父母との連携を元に、教師、生徒、父母が学校をあげて取り組む、言わば総力戦です。時代を経るにつれ、世の中が地域との関わり合いが少なくなる中、2020年度から感染が広がった新型コロナウイルス感染症がさらに追い打ちをかけ、署名を集めることが年々大変になってきています。それでも桜丘の文化として署名活動が続けられていられるのは、桜丘が父母との関わり合いを大事にし続け、その父母が我が子のためだけではなく、周りの子どもたちのために、将来の子どもたちのために尽力してくださっているからに他なりません。

式典

助成金運動のもう一つの柱が式典の開催です。桜丘では櫻輝祭の二日目、一般公開の際に、体育館に2千人以上を集めて式典を行っていました。これは、式典に登壇してもらっている県議会議員に私学教育の特長を理解し、共感してもらうことで学費の公私格差を是正してもらうための訴えをするのがその主な目的です。長年この式典を続けてきたことで、県議のみなさんには私学教育に対してより理解を示し、協力的な姿勢をとってくださるようになってきています。県議の中には、御子息や御息女を本校に通わせてくださる方も増えてきました。そういった

時代の変化に合わせて式典も形を変えてきました。現在は式典自体の規模を縮小し、朝に式典を行うことで、学園祭を止めずに行う方法で開催することができています。式典に参加していただく方も父母の役員の方や父母バザーに参加して下さる方に限定しています。そして、県議の方々も毎回ほぼ全員の方が参加してくださり、私学教育に好意的な発言をしてくださいます。愛知県全体ではこのような式典が約40会場で開催され、90名を超える県議が参加、登壇してくださっています。

全国をリードする愛知県の助成金運動



過去をさかのぼると愛知県では、1973年から助成金運動が開始されました。その当時、公立高校の授業料が年間8200円、私立高校の授業料が26万8200円でした。その差は32.8倍です。授業料補助の制度は何もありませんでした。私立高校に進学したことを泣いて親に謝る生徒、経済的な理由で辞めていく生徒、そういう生徒たちの姿を見て、教師たちが立ち上がりました。愛知県庁の前でハンガーストライキを行ったこともあります。そんな教師の姿を見て、父母も一緒に格差是正に向けて運動していこうと結成されたのが、『私学をよくする愛知父母懇談会』です。1980年に『愛知父母懇』が結成されてからは、教師と父母とが互いに手を取り合い、様々な運動を展開し、全国の助成金運動をリードしてきました。映画『それぞれの旅立ち』の制作・上映や地域別文化大祭典・ドーム祭典の開催、条例制定運動など挙げ始めれば枚挙に暇がありません。

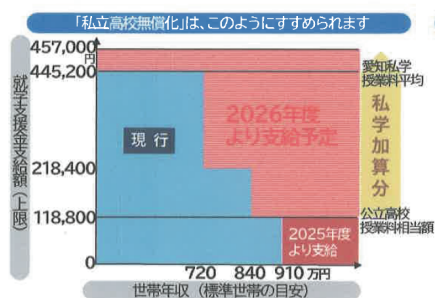
このように連綿と運動の歴史が刻まれていく中、2020年、大きな成果を手にすることができました。国が私立高校に通う生徒がいる家庭に対し、年収590万円未満世帯の学費無償化に踏み切りました。それに呼応する形で、愛知県はそれまで県から助成していた額をそのまま上乘せし、年収720万円未満世帯までの授業料と入学金の無償化が実現しました。これはつまり、「私立高校に通う約半数の世帯」が無償化になったということです。年収720万～840万円未満世帯には、授業料と入学金の1/2が助成され、年収840万～910万円未満世帯には国の就学支援金11万8800円が助成されています。公私の授業料の格差が32.8倍もあった当時から考えれば、本当に大きな進展だと言えます。



悲願
達成

ところがその後、愛知県においては助成金制度の拡充が足止めされた状況が続いていました。一方で他の都道府県では、所得制限の撤廃や多子家庭による助成金制度の拡充が進められていました。東京都や大阪府では、公私を問わず、所得制限を撤廃した高校授業料の完全無償化となり、福井県や富山県や奈良県では多子世帯に対しての助成金拡充がなされました。

そんな折、桜丘学園創立100周年を目の前にした2025年2月末、政権を担う自民党、公明党に日本維新の会が協力する形で、三党による高校授業料無償化の正式合意がなされたことが報じられました。これは助成金制度が根本から劇的に変わるといことです。2025年度においては、公立、私立に限らず、年収910万円以上世帯に11万8800円が助成されます。これにより公立高校では所得制限なしの完全無償化、私立高校では今まで助成されていなかった910万円以上世帯への助成金拡充となります。そしてなんと、2026年度には所得制限を完全に撤廃し、授業料への助成額が45万7千円を上限に引き上げられることが合意されました。つまり、現在本校の年間学費が44万4千円であるため、これにより所得に関係なく、全世帯の完全無償化が実現するということです。



※現行の制度では、世帯年収や家族構成などによって支給額が異なります。
※2026年度以降の支給額は、今後、国・県において詳細が決定されることになっています。

愛知県私立学校教職員組合連合より

[illegible]

引上げると明記した。文化庁と省令で示した資料によらず、前に受給するに及ぶと、新に受給の対象は約万人となる。給付金額は「一歩は小学校を念頭に、加年増を実現する」と強調。中学校にも拡大する。低所得層向けの奨学給付金を、40万の額に給付額をも拡大する。

社会保険の引上げは、一「政府決定が国民代表者による」が党議決を経て、保険、市販とも買入の給付額削減を除く。新案の主旨は「実現可能なものは26年から順に移す」とした。医療給付額は、計10万1千円に際するこの種の新給付額を「新案に照

く」と記し
舞臺修正
早期に成立
野田の成立
は英会館
会を開演
す。計、舞臺
をみた。
舞臺が出た

「中日新聞2025年2月26日朝刊」からの引用

50年以上に渡り行ってきた、助成金運動の悲願が今まさに達成されたのです。長きに渡り運動に携わってこられた方にとってこれは、夢にまでみた結果なのではないかと思います。これからは学費で苦しむ生徒や父母の姿を見なくて済むという安堵の思いでいっぱいになっている方がみえるかと思います。先輩から後輩へ代々受け継がれてきた運動の集大成が今ここにあるのです。

経済的なことを気にせず、自由に学校を選ぶことになるということは、私立高校にとっては大きな追い風となるはずです。この追い風を受けて、100周年を迎える桜丘が、次の100年を迎えられるように、これまで助成金運動にかけてきた時間やその力をさらに教育に注ぎ、生徒、父母に選ばれ続ける学校であるように挑戦し続けることが、助成金運動が結実した今を担う我々の責務です。



国際交流

カイコライバレーカレッジ ニュージーランド



姉妹校より100



校長 ジャティン・バリ

ニュージーランドのダニーデン市からこんにちは。

カイコライバレーカレッジ校長のジャティン・バリです。この度、カイコライバレーカレッジと桜丘高等学校の特別な絆を祝うことができ、光栄です。私たちは姉妹校として37年という本当に長い交流があります。これは

私たちの最も長く、そして大切なパートナーシップであり、その絆は毎年より強くなっています。

長年にわたるこの絆により、両校の生徒と教職員は、お互いを訪問し、手紙や会話を交わし、生涯まで続くであろう友情を築くことができました。生徒たちが世界の見知らぬ場所を訪れ、異なる文化を受け入れ、新しい友達を作り、ホームステイを体験する姿を見ることができるのは素晴らしいことです。言語の壁があったとしても、それが交流を妨げることはありません。生徒たちはコミュニケーションをとり、一緒に学び、成長する方法を見つけています。教師もこのパートナーシップから多くのことを得て、様々な情報を共有し、両校の発展に貢献してきました。

100周年おめでとうございます。この素晴らしい関係が今後も末永く続き、更に発展していくことを心から願っています。そして今後も、桜丘高等学校の多くの生徒と教職員をお迎えできることを楽しみにしています。

Hello from Dunedin, New Zealand

My name is Jatin Bali, and I am the Principal of Kaikorai Valley College. It's a pleasure to celebrate the special bond between Kaikorai Valley College and Sakuragaoka High School—a sister school relationship that has thrived for an incredible 37 years! This is our longest and most treasured partnership, which grows stronger yearly.

Over the years, this connection has allowed students and staff from both schools to exchange visits, letters, and conversations—building friendships that last a lifetime. It's been amazing to see students travel to a new part of the world, embracing different cultures, making new friends, and experiencing life in a homestay. Even language differences haven't stopped them—they've found ways to communicate, learn, and grow together.

Teachers, too, have gained so much from this partnership, exchanging ideas and insights that have enriched both of our schools.

Congratulations on your 100-year anniversary. I am excited to see this wonderful relationship continue to flourish in the years ahead, and I look forward to welcoming many more students and staff from Sakuragaoka High School in the future!

桜丘学園には、2校の姉妹校があります。中国の南京師範大附属中学（日本の高等学校に相当）とニュージーランドのダニーデン市にあるカイコライバレー校です。姉妹校となって今年でそれぞれ42周年、37周年を迎えました。

桜丘は中国語の授業がある数少ない学校であり、また中国姉妹校への生徒・教師の行き来もさかんです。ニュージーランドの姉妹校とは、生徒の相互留学やホームステイが毎年行われています。



南京師範大学附属中学にて



ニュージーランドで世界一の急坂登りに挑戦！



姉妹校で日本文化紹介。



中国語学研修旅行で姉妹校を訪れ交流を楽しむ



桜丘での生活を楽しむニュージーランドの生徒



姉妹校生徒と豊橋駅で別れを惜しむ

桜丘学園は姉妹校の枠にとらわれない国際交流の拠点として、地域に強く求められるようになっています。豊橋市国際交流協会が実施している外国人児童サマースクールボランティア事業は、夏休みに外国人児童のいる小学

校へ赴き、一緒に宿題をしたり、絵本を読んだり、まだ日本になじんでいない外国人の子供たちを支援する活動ですが、16年前より毎年約30名の高校生徒が参加、外国人児童と心温まる交流を続けています。



南京師範大学附属中学 校長

李天下（たくさんの門下生や弟子たちが優れた才能を持っている状態）という言葉があるように、貴校は優れた教育理念と深い文化的蓄積を持ち、多くの人材を育成し、中国と日本の国際文化交流のための堅固な架け橋を築いてきました。

1983年から、私たちの学校と貴校は友好校を形成し、40年以上の春秋が両者の長い友情を見守ってきました。貴校は常に開放性と包容性の精神を貫き、私たちの学校と互いに学び合い、言語教育、文化交流、教職員と生徒の交流訪問の分野で実りある成果を上げてきました。原田和広先生や間坂先生などの桜丘の先生方が、私たちの学校にお越しくださり、教鞭をとって、中国の生徒に学ぶ機会を与えてくださいました。貴校

の支援により、私たち教員は言語と文化の壁を越えて中国文化の種を蒔いてきました。この国境を超えた教育への情熱は、両校の友情がますます深まっていることを生き生きと描写しています。

百年の旅路において、貴校は常に時代の最前線に立ち、先駆的かつ革新的な教育の発展をリードしてきました。中国語のコースの開設から多元文化の融合、学術協力から若者交流に至るまで、貴校は常に日中友好の事業の堅実な実践者であり続けています。私たちは、教育は単なる知識の伝達ではなく、心と心の対話であることを十分に理解しています。過去100年間、貴校は世界の教育に貴重な知恵と活力を注入してきました。

未来を見据え、我が校は貴校と手を携えて協力の深みを探求し、人材育成の革新的な道を模索し、両国の若者のためのより広い成長の舞台を築くことを望んでいます。次の100年に向けて、両校の友情が長江の流れや富士山のように続き、人類の未来を共に築くために貢献できることを期待しています。

最後に、桜丘高等学校の創立100周年の祝賀が大成功を収めることを心より願っております！貴校が過去を引き継ぎ、未来に向かって前進し、さらなる輝きを創造されることを願っています！

尊敬的櫻丘高校理事長、校長及全体师生：

值此新春之际，欣闻贵校喜迎建校一百周年华诞，南京师范大学附属中学全体师生谨向贵校致以最热烈的祝贺和最诚挚的祝福！百年树人，桃李天下，贵校以卓越的教育理念与深厚的文化积淀，培养了众多栋梁之才，更为中日国际人文交流架起了一座坚实的桥梁。

自1983年我校与贵校结成友好学校以来，四十余载春秋，见证了双方情谊历久弥坚。贵校始终秉持开放包容的精神，与我校互鉴互学，在语言教育、文化交流、师生互访等领域结出累累硕果。贵校原田和广先生、间坂修明先生等教师曾在我校辛勤耕耘，将严谨治学的态度传递给中国学子；我校教师亦在贵校的支持下，跨越语言与文化的藩篱，播撒汉语文化的种子。这份跨越国界的教育热忱，正是两校友谊生生不息的生动写照。

百年征程，贵校始终勇立潮头，以开拓创新引领教育发展。从汉语课程的开设、扎根到多元文化的融通，从学术合作到青少年交流，贵校始终是中日友好事业的坚定践行者。我们深知，教育不仅是知识的传递，更是心灵的对话。贵校百年来的坚守与开拓，为世界教育注入了宝贵的智慧与活力。

展望未来，我校愿与贵校继续携手并进，深化合作内涵，共探人才培养的创新路径，为两国青年构筑更宽广的成长舞台。期待在下一个百年，两校友谊如长江水与富士山一般绵延不息，携手为构建人类命运共同体贡献教育力量！

最后，衷心祝愿櫻丘高校百年校庆圆满成功！愿贵校继往开来，再创辉煌！



豊橋市に住むミャンマー、ベトナム、インドネシアの方々と高校生が佐久島旅行。海岸清掃とバーベキューを実施。



平和の塔紹介リーフレット日英版を作成。



外国人児童サマースクール。子どもたちに漢字を教える。

また「とよはしインターナショナルフェスティバル」には、ボランティアとして20年前より本校生徒約30名が参加。舞台裏での進行係、物品販売や駐車場管理、案内や後片付けなどに従事しながら、外国人とのコミュニケーションを楽しんでいます。

2024年からカナダのバンクーバーでの語学研修もまりました。14名の生徒が参加し、ホームステイと語学学校で3週間の英語漬け生活を体験しました。



カナダバンクーバーにて

桜丘学園は、中国、ニュージーランドの姉妹校との交流を大切に、良好な関係を継続しつつ、地域では外国人との交流を通して理解を深め、これからも生徒主体で楽しんでいこうと思っています。



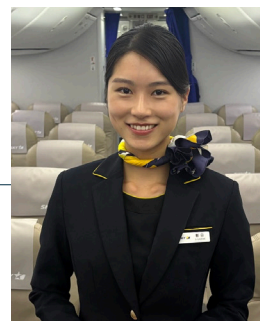
卒業生の活躍

活躍する卒業生

それぞれの分野で活躍する卒業生8名から、後輩の皆さんへのメッセージが届きました。高校時代に得た経験や学びが、今の仕事や人生の中でどのように活かされているのかを、率直に語っていただいています。進んだ道や立場は異なっても、「この学校で学んだこと」が、それぞれの中にしっかりと根づいていることが伝わってきます。これから進路を考える皆さんにとって、きっと心強いヒントや励ましになるはずです。ぜひご覧ください。

2020年度卒

スカイマーク株式会社
客室乗務員 影目 竣香



高校時代、思い出に残っていること

同じ目標を持つ友人たちと、毎日遅くまで学校に残って勉強していた時間は、今振り返っても特別な思い出です。大学進学を目指す仲間の中で、自分だけが専門学校という進路を選んだことに、迷いや不安を感じた時期もありました。それでも、お互いを励まし合いながら努力を重ねた日々は、進路の違いを越えて強い絆を育んでくれました。あの時間があつたらからこそ、今の自分の選択に自信を持てています。何を選ぶかより、どう向き合うかが大切だと、教えてくれた高校生活でした。

桜丘高校で得たことと今活きていること

勉強する習慣は地道に努力する力を養うものだとも早いうちに気づけたことが高校生活で得たことです。当時はどうしてこんなに宿題が多くて、居残りまでしなきゃいけないんだろうと思うこともありましたが、自分で決めた目標に向かって努力し続ける大切さを学びました。今の仕事では、膨大な量のマニュアルを覚えた上で業務をこなし、年に一度の定期訓練にも挑まなければなりません。そんな時、高校時

代に培った勉強の習慣が、大きな支えになっています。

後輩へのメッセージ

親や先生から高校生活はあっという間だよという言葉は何度も聞いていたのに、あの頃の私は早く卒業したい、早く大人になりたい。と思ってばかりでした。ですが今、振り返ってみると、想像以上にかけがえない時間だったとしみじみ思います。桜丘の良さである距離の近い先生方の存在や、同じ夢や目標を持つ仲間たちとの日々の中で、今、高校生のうちしかできないことを目一杯楽しんでください。今は夢など見つからなくても大丈夫です。どうか限りある一日一日を大切に、自分らしく歩んでください。

1991年度卒

株式会社 三立
代表取締役 疋田 修章



高校時代、思い出に残っていること

渥美半島の先から学校に向け夕方から翌朝に歩いた「渥美夜間歩行」という行事。みんなで文句、愚痴を言いながら歩いていましたが、到着した時の達成感は今でもはっきり覚えています。部活はバスケットボールを3年間やりました。当時は強くなく仲間と楽しくやっていた程度ですが、良い思い出です。

桜丘高校で得たこと

時代を振り返って、多くの友情と挑戦の記憶が蘇ります。友人と過ごした時間や、困難に立ち向かいながら少しずつ自分を成長させた経験は、私の支えとなっています。

そのことが現在のお仕事に活きていると感じる点

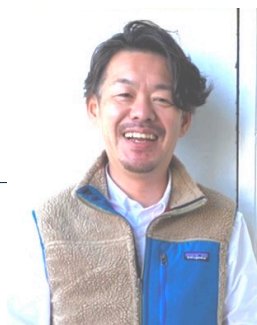
友人との協力やチームワーク、困難に挑戦した経験は、仕事の場で仲間と協力し合い、問題を乗り越える力となっています。あの頃培った忍耐力と粘り強さは、日々の業務を続ける原動力となり、自分の成長を実感できる源です。高校で学んだことは、私の人生と仕事を支える大切な財産です。

後輩へのメッセージ

社会は簡単です。幼稚園、保育園で習った、朝は「おはよう」、ご飯を食べる時は「いただきます」。感謝するときは「ありがとう」。帰るときは「さようなら」。これらの挨拶が出来ればなんとかなります。また自分の過去は変えることができませんが、過去への思いは変えることができます。今は最悪だと思う事も、その出来事としっかりと向き合えたら、良い思い出に変わるはずです。自分を良い方向へ持っていけない人は、人のせいになります。そして、悪い出来事は悪いままの思いになります。過去への思いは変えられません。今を良くする努力を願います。

1994年度卒

有限会社 グレイシスジャパン
代表取締役社長 中川 章



高校時代、思い出に残っていること

応援団に所属し、夏に野球部を全力で応援したことが忘れられません。炎天下のスタンドで汗が滝のように流れる中、仲間と肩を並べ、声を張り上げ続けました。太鼓やメガホンの音が一体となり、選手たちのプレーと共に球場全体を包み込むあの迫力は、今でも鮮明に覚えています。勝って喜び合った瞬間も、負けて涙を流した瞬間も、すべてが仲間との強い絆を感じた高校生活のハイライトでした。あの夏の熱気と一体感は、人生の中でも特別な宝物です。

桜丘高校で得たこと

先生方との距離が近く、授業中や放課後にも気軽に声をかけ、悩みや喜びを共有できた高校生活は、私にとって大きな財産です。時には励まされ、時には背中を押していただきながら、人とのつながりの温かさを深く知ることができました。その中で、相手の立場を思いやり、互いに信頼を築いていく大切さを学びました。この経験は、社会に出た今も人間関係を築くうえでの原点となっています。

そのことが現在のお仕事に活きていると感じる点

高校時代に培った人とのつながりや信頼関係を大切にしている姿勢は、現在の仕事において“行動力”として活きています。お客様や仲間の状況を素早く察し、その場にに応じた対応ができることで、円滑なやり取りや継続的な関係づくりにつながっています。特に接客や打ち合わせの場面では、高校時代に身につけた人との距離感や温かみを持った対応が、信頼を深める大きな要素になっています。

後輩へのメッセージ

この高校で過ごす3年間は、かけがえのない仲間と出会い、自分を大きく成長させる時間です。失敗を恐れず、やりたいことには全力で挑んでください。後から振り返ったとき、その努力や笑顔がきっとあなたの誇りになります。

2010年度卒

三桜工業(株)欧州本社
現法社長 マンタス パプロブヒナス



高校時代、思い出に残っていること

高校時代にはバスケットボールと日本語の勉強に集中していましたので、思い出に残っているのはやっぱりバスケットボールですね。2007年4月12日に来日してから全く日本語を話せなかったのですが、バスケットボールのチームメイトや、学校の先生方や友達に沢山話をかけてもらって勉強になり楽しい時間を過ごすことが出来ました。

桜丘高校で得たこと

入学した時には親から離れた単なる子供でしたが、高校を卒業する時には大人になっていたと思います。

そのことが現在のお仕事に活きていると感じる点

高校時代はバスケットボールを必死にやっていたので、今は仕事がどれだけ辛くても辛さを感じないです。仕事でも忙しい時があり、一日数時間しか寝ないで仕事をすることもあります。もちろんそれが普通ではありませんが、ピンチの時はやるしかないのです。高校時代はひどい筋肉痛でも練習をしました。どんなに大変な仕事でも体は痛くないので怖いものなしです。

桜丘高校の後輩へのメッセージ

友達：高校の仲間が卒業してからどんな仕事をするのかわかりません。なので、誰とでも仲良くしてください。いつか助けてもらうことになるかもしれません。

日々の生活：高校生活は人生に一度しかないので高校生しかできないことを思いっきり楽しんでください。辛いこともあると思いますが絶対に逃げないであきらめないでやり切ってください。

英語勉強：多くの日本人は世界が“狭くなっている”ので英語を話さないといけないと思います。もちろんいきなりペラペラには話せませんが、いろんなアプリがありますので自分で勉強して欲しいです。はっきり言って、文法はどうでも良いです。単語と単語を適当につなげば相手には言いたいことが伝わりますので自信をもってください。

海外を知ること：世界は広いです。豊橋や愛知県で終わりません。可能な限り海外を経験してください。旅行でも留学でもワーキングホリデーでもボランティア活動でもOKです。海外を経験した後は日本食がどれだけ安定しておいしいか、日本はどれだけ安全な国か、日本人はどれだけ優しいかが分かります。

人としてなりたい姿：高校時代の友達や先生方に顔を合わせた時、恥ずかしくない人になってほしいです。誰でも失敗はするものです。でも大切なのは、失敗から立ち直る力を持つことです。失敗は、自分の限界を知り、成長するための貴重な経験です。だからこそ、恥ずかしがらずに、どんなことにも思い切って自分らしく挑戦してください。



卒業生の活躍

2003年度卒

株式会社レベルファイブ
ゲームプロダクトグループ サウンドチーム チームリーダー
西郷 憲一郎



高校時代、思い出に残っていること

高校時代は、僕にとって繊細で多感な時期でした。思い出すたびに、いつも心のどこかに少しだけ引っかかるものを感じます。音楽の道に進むことを自分の中で決め、舵を切った大切な時期でもありました。周囲の友人たちが受験シーズンに入り猛勉強している中、僕は音楽大学の受験に向けて、遅れながらも基礎知識を詰め込んでいました。周りは勉強一色の空気の中で、自分の選択がまるで逆方向にあるように感じ、心細さを感じていたのをよく覚えています。それでも、「いつか自分の音楽を誰かに届けたい」という気持ちは、その頃から確かにありました。桜丘中学からの友人や、英数科で出会った仲間、自作の曲を恥ずかしがりながら披露していたこともあります。ある日、友人から「短くていいから曲を作ってほしい」と頼まれ、制作しました。卒業から20年以上が経った今でも、その友人の鉄工所では、朝のチャイムとしてその曲が使われているそうです。高校時代に初めて依頼されて作ったそのチャイムが、当時の不安や迷いを思い出させると同時に、今の音楽の仕事へと自然につながっていることを、静かに実感しています。迷いながらも自分を信じて進んだ高校時代が、今の僕の原点です。

桜丘高校で得たこと

桜丘高校での時間は、自分の生き方にどの様に道筋を立てるかを考える、自分と向き合う時間だったと思います。文系か理系かという選択ひとつをとっても、当時の自分にとっては「この選択は明らかに人生を変え得る」というものでしたし、その様な大きな選択がいくつかあった様に思います。そうした選択を重ねる中で、自分には何が向いているか、自分の将来像について、どの様に活躍する姿を想像できるか、を現実的

に、シビアに想像する時間だったと思います。

そのことが現在のお仕事に活きていると感じる点

現在僕は、ゲーム、アニメ、映画などの音楽制作や、サウンドディレクターとしてチームを率いる立場にありますが、自分の好みで好き勝手に作っているわけではありません。僕の仕事のゴールのひとつは、作品が持つ魅力を、音楽によってさらに引き立てることです。その中では、自分の好みとは異なるものが「正解」である場面も少なくありません。そうした状況の中で、いつも制作の助けになるのは、子供時代に何に感動していたか、何に心が動いたか、そして今のアイデアを当時の自分が見たらどう感じるか— そういった物差しで考えることだと思っています。その感覚は、僕が作曲を始めた中学・高校時代に培われたものだと思っています。

後輩へのメッセージ

高校生活の中では、進路や将来について迷うこともあると思います。周囲と違う選択をすることによって、不安を感じる場面もあるかもしれません。僕自身も、音楽の道に進むと決めたとき、周囲の空気との違いに戸惑い、心細さを感じていました。ですが、あの時に自分の気持ちに正直でいられたことが、今の仕事につながっています。自分のペースで、自分の選択を丁寧に考えてみてください。良いことばかりじゃないと思いますが、あとになってみれば苦い思い出も役に立ちます！頑張ってください！

2017年度卒

豊橋市民病院
小児科 医員 鈴木 響太



高校時代、思い出に残っていること

高校時代の思い出として最も記憶に残っているのは部活や、総合の授業などの課外活動です。授業だけでは味わうことのできない、仲間と協力して目標に向かうことの楽しさは、一生忘れることができません。また、目指した目標を達成することができた時の喜びも個人で活動することでは味わうことができない最高の思い出です。

桜丘高校で得たこと

桜丘では、一生の友達を得ました。桜丘では課外活動、部活が熱心に行われていて、それらで協力し、ともに時間を過ごした友達は一生ものになるはずです。また先生方との距離が近く、高校生であった自分にとって身近な大人とのかかわりは、卒業後の様々な大人とのかかわり方のベースとなりました。最後は小さなことではありますが、年に1度は人前で発表することのできる場が設けられていたことで、人の前で話すことに慣れることができたことも桜丘で得たものと考えています。

そのことが現在のお仕事に活きていると感じる点
仕事が始まると利害関係がなく、大切だと言い切る

ことのできる友達をつくることは本当にむずかしいです。気軽にいろいろなことを相談できる友達の存在は、どんな仕事をするか、就職先など自分の人生を決める決断の大きな助けになります。また医師の仕事以外にも言えることですが、様々な年齢層の人とコミュニケーションをとったり、多くの人の前で話したりすることが多くあります。その時に同年代の人以外の人と話したり、人前に立ったりすることに慣れていることは大きな助けになりました。

後輩へのメッセージ

桜丘で過ごす6年間ないし3年間は人生の中で一番といえるほど楽しい時間です。先生方はやりたいことを応援して、協力してくれます。ぜひやりたいことがある人はやりたいと相談してみてください。その行動は今後の人生の宝物になるはずです。

1995年度卒

切り絵作家
あらき ちかこ

高校時代、思い出に残っていること

おやすみの日も、ほとんど毎日、美術室へ行っていました。50号や100号の大きな絵の制作や講評会、作品展、夏の合宿、様々な活動をしていましたが、美術室でみんなと過ごす時間が、本当に楽しかった。私にとって、美術部での時間は、かけがえのない経験でした。

桜丘高校で得たこと

それぞれが、好きなこと、得意なことに一生懸命打ち込み、それをお互いに認め合い、応援する。自分を大事にできるようになったのは、そのような先生や友人に出会えたからだと感じています。

そのことが現在のお仕事に活きていると感じる点

いろいろな表現方法があるなかで、〝切り絵、という、私にとっての〝魔法〟を見つけ、作品を作り続



けているのも、〝美術部での時間、という原点があるからだ〟と思います。

後輩へのメッセージ

何か自分の好きなこと、得意なことに真剣に取り組んでください。今はまだ見つからなくても、きっかけになる種は、何処にでも落ちています。楽しい学校生活を送って、たくさん思い出ができることを願っています。

1997年度卒

(公財)日本センチュリー交響楽団 首席フルート奏者
大阪音楽大学講師
永江 真由子

高校時代、思い出に残っていること

幼少期からピアノ・合唱と音楽に親しみ、吹奏楽でフルートを始めました。より専門的に音楽を学びたいと思い桜丘高校音楽科に入学しました。同じ志を持つ仲間が集まっているので互いに刺激を受けられる事、音楽科ならではの授業が整っている環境が私に合っていたと思います。在学中は友達と一緒に始発で学校へ行き朝練、授業後は閉門ギリギリまで自主練習をしてから帰るという生活をしていました。元々は人前に立つことが苦手でしたが、実技試験や定期演奏会、学園祭での音楽科の出し物で友達の伴奏で歌ったり、多くの本番を経験した事で緊張ながらも舞台を楽しめるようになっていったと思います。

桜丘高校で得たこと

音楽についての様々な授業やレッスンを通して音楽の楽しさや奥深さを知りました。高校三年時、学生音楽コンクール名古屋大会で1位をいただき、演奏家という職業を強く意識するきっかけになりました。また、音楽科の定期演奏会でアンサンブルをしたり、友達にピアノ伴奏をしてもらったり、仲間と1つの音楽を作り上げることの楽しさを体験しました。



また、そのことで現在のお仕事に活きていること

音楽大学に進学し、ソロはもちろんオーケストラの演奏を生で聴く機会が増え、エキストラ出演・オーディションを経て今に至ります。高校時代の仲間たちとのアンサンブルでの経験から、多くの仲間と共に音楽を奏でたい、という気持ちが生まれたと感じています。オーケストラの仕事でオペラを演奏していると、高校の授業でワクワクしながらオペラDVDを観た気持ちを思い出します。

後輩へのメッセージ

高校から自分の好きなこと、興味があることを専門的に学べることはとても有意義で貴重な3年間になると思います。同じ目標を持った仲間たちと切磋琢磨し、全面的にサポートしてくださる先生方から音楽の素晴らしさや演奏する喜びを学び、卒業後にどんな形で音楽と接していくかを考えるきっかけや経験を得られると思います。音楽の現場で会えることを楽しみにしております。

桜丘高校卒業の主な著名人

卓球	深津 尚子 松下 浩二 新井 周	競輪	金子 貴志 深谷 知広	芸人	若月 亮 DJ 千駄あずさ プロデューサー 長谷 真行
柔道	谷本 歩実	ボクサー	尾川 堅一		
野球	中川 大志	歌手	大津 美子 北原ミレイ		
バスケ	富永 啓生 モッチラミン	俳優	佐野 光洋 渡會 元之 平田 貴之		
水泳	加藤 ゆか				

【国公立大学】

帯広畜産大学	弘前大学	秋田大学	埼玉大学	長岡技術科学大学	富山大学	名古屋大学	愛媛大学
信州大学	静岡大学	浜松医科大学	愛知教育大学	豊橋技術科学大学	名古屋工業大学	山口大学	前橋工科大学
大阪大学	大阪教育大学	神戸大学	広島大学	鳥取大学	島根大学	群馬県立女子大学	静岡県立大学
佐賀大学	長崎大学	宮崎大学	鹿児島大学	公立ほこだて未来大学	釧路公立大学	岐阜県立看護大学	県立広島大学
横浜国立大学	山梨県立大学	長岡造形大学	富山県立大学	公立小松大学	公立諏訪東京理科大学	奈良県立大学	
静岡文化芸術大学	愛知県立大学	愛知県立芸術大学	名古屋市立大学	神戸市外国語大学	兵庫県立大学	福井大学	
広島市立大学	尾道大学	福山市立大学	島根県立大学	山陽小野田市立山口東京理科大学	金沢大学	三重大学	

【私立大学】

札幌大学	北海道医療大学	北星学園大学	北海道情報大学	酪農学園大学	仙台白百合女子大学	東北医科薬科大学	国際医療福祉大学
白鷗大学	関東学園大学	上武大学	城西大学	駿河台大学	東京国際大学	日本薬科大学	文教大学
開智国際大学	川村学園女子大学	神田外語大学	城西国際大学	清和大学	千葉科学大学	千葉工業大学	千葉商科大学
明海大学	流通経済大学	麗澤大学	青山学院大学	桜美林大学	亜細亜大学	大妻女子大学	学習院大学
北里大学	杏林大学	慶應義塾大学	工学院大学	國學院大学	国士舘大学	国立音楽大学	恵泉女子学園大学
駒澤大学	駒沢女子大学	芝浦工業大学	順天堂大学	上智大学	昭和大学	昭和薬科大学	成蹊大学
専修大学	創価大学	大正大学	大東文化大学	拓殖大学	玉川大学	多摩美術大学	中央大学
津田塾大学	帝京大学	帝京科学大学	帝京平成大学	東海大学	東京音楽大学	東京工科大学	東京工芸大学
東京歯科大学	東京女子大学	東京造形大学	東京農業大学	東京理科大学	東京薬科大学	東邦大学	桐朋学園大学
東洋大学	日本獣医生命科学大学	日本女子大学	日本女子体育大学	日本体育大学	日本大学	文化学園大学	法政大学
武蔵野音楽大学	武蔵野美術大学	武蔵野大学	明治大学	明治学院大学	明治薬科大学	目白大学	立教大学
立正大学	和光大学	早稲田大学	洗足学園音楽大学	神奈川大学	関東学院大学	松蔭大学	湘南医療大学
昭和音楽大学	フェリス学院大学	横浜薬科大学	山梨学院大学	金沢工業大学	福井工業大学	朝日大学	岐阜医療科学大学
岐阜協立大学	岐阜聖徳学園大学	中京学院大学	中部学院大学	東海学院大学	静岡産業大学	静岡福祉大学	静岡理工科大学
聖隷クリストファー大学	常葉大学	浜松学院大学	愛知医科大学	愛知医療学院大学	愛知学院大学	愛知学泉大学	愛知工科大学
愛知工業大学	愛知産業大学	愛知淑徳大学	愛知大学	愛知東邦大学	愛知文教大学	愛知みずほ大学	岡崎女子大学
桜花学園大学	金城学院大学	至学館大学	修文大学	椋山女子学園大学	星城大学	大同大学	中京大学
中部大学	東海学園大学	同朋大学	豊橋創造大学	名古屋音楽大学	名古屋外国語大学	名古屋学院大学	名古屋学芸大学
名古屋経済大学	名古屋芸術大学	名古屋産業大学	名古屋国際工科専門職大学	名古屋商科大学	名古屋女子大学	名古屋造形大学	名古屋文理大学
南山大学	日本赤十字豊田看護大学	日本福祉大学	人間環境大学	藤田医科大学	名城大学	鈴鹿医療科学大学	四日市看護医療大学
奈良大学	帝塚山大学	天理大学	京都外国語大学	京都先端科学大学	京都芸術大学	京都光华女子大学	京都産業大学
京都女子大学	京都精華大学	京都造形芸術大学	京都橘大学	京都ノートルダム女子大学	京都美術工芸大学	京都薬科大学	明治国際医療大学
花園大学	同志社大学	同志社女子大学	佛教大学	立命館大学	龍谷大学	大阪音楽大学	大阪学院大学
大阪芸術大学	大阪産業大学	大阪商業大学	大阪工業大学	大阪体育大学	大阪学院大学	大阪経済大学	大阪薬科大学
関西大学	関西医科大学	関西外国語大学	近畿大学	梅花女子大学	四天王寺大学	阪南大学	摂南大学
帝塚山学院大学	奈良大学	関西学院大学	神戸学院大学	神戸女学院大学	神戸薬科大学	園田学園女子大学	姫路獨協大学
武庫川女子大学	岡山理科大学	IPU環太平洋大学	吉備国際大学	広島文化学園	福山大学	徳島文理大学	福岡大学
九州産業大学	福岡工業大学	日本文理大学	立命館アジア太平洋大学	大阪河崎リハビリテーション大学	国際ファッション専門職大学	中国語言語大学東京校	

【大学校】

愛知県立農業大学校
日本航空大学校
港湾職業能力開発短期大学校

【短期大学】

東京成徳短期大学	愛知工科大学自動車短期大学	浦和大学短期大学部	名古屋文化短期大学	岡崎女子短期大学
愛知学泉短期大学	名古屋経営短期大学	愛知文教女子短期大学	中日本自動車短期大学	京都外国語短期大学
豊橋創造大学短期大学部	山野美容芸術短期大学	名古屋短期大学	至学館大学短期大学部	愛知医療学院短期大学
西日本短期大学	愛知大学短期大学部	大垣女子短期大学	名古屋文理大学短期大学部	修文大学短期大学部
東京家政大学短期大学部	名古屋女子大学短期大学部	愛知みずほ短期大学	平成医療短期大学	関西外国語大学短期大学部

【専門学校】 ※50音順

愛知県立岡崎高等技術専門学校	専門学校星城大学リハビリテーション学院	東海医療工学専門学校	名古屋スイーツ&カフェ専門学校	Moo Beauty Association
大阪ECO動物海洋専門学校	専門学校名古屋デンタル衛生士学院	東京リゾート&スポーツ専門学校	名古屋栄養専門学校	理学・作業名古屋専門学校
織田製菓専門学校	専門学校ヒコ・みずのジュエリーカレッジ	豊橋調理製菓専門学校	名古屋ユマニテク歯科衛生専門学校	あいち福祉医療専門学校
国際トラベル・ホテル・ブライダル専門学校	中部コンピュータ・パティシエ専門学校	名古屋医療秘書福祉&IT専門学校	浜松未来総合専門学校	大原法律公務員専門学校
専門学校名古屋ビジュアルアーツ・アカデミー	東海医療技術専門学校	名古屋情報メディア専門学校	ミス・パリ・ビューティ専門学校 名古屋校	広告デザイン専門学校
専門学校名古屋デザイナー・アカデミー	東京ベルエポック美容専門学校	名古屋ビューティアート専門学校	代々木アニメーション学院	資生堂美容技術専門学校
専門学校 HAL名古屋	豊橋市立看護専門学校	名古屋モード学園	愛知美容専門学校	専門学校東京アナウンス学院
中部楽器技術専門学校	名古屋医療情報専門学校	浜松調理菓子専門学校	大阪リゾート&スポーツ専門学校	専門学校日本デザイナー学院
東海医療科学専門学校	名古屋こども専門学校	三河歯科衛生専門学校	京都伝統工芸大学校	総合学園ヒューマンアカデミー 名古屋校
東京スクールオブミュージック&ダンス専門学校	名古屋動物専門学校	米田柔整専門学校	静岡工科自動車大学校	中和医療専門学校
豊橋看護学校	名古屋未来工科専門学校	あいちビジネス専門学校	専門学校東海工科自動車大学校	東海調理製菓専門学校
名古屋医専	日本工学院専門学校	大阪ダンス・俳優&舞台芸術専門学校	専門学校日産愛知自動車大学校	東京ステップス・アーツ
名古屋工学院専門学校	穂の香看護専門学校	神田外語学院	総合学園ヒューマンアカデミーゲームカレッジ	トライデントデザイン専門学校
名古屋デザイン&テクノロジー専門学校	横浜市病院協会看護専門学校	静岡インターナショナル・エア・リゾート専門学校	中部福祉保育医療専門学校	名古屋ECO動物海洋専門学校
名古屋平成看護医療専門学校	愛知調理専門学校	専門学校中部ビューティ・デザイン・デンタルカレッジ	東海こども専門学校	名古屋製菓専門学校
日本ウェルネススポーツ専門学校	大阪総合デザイン専門学校	専門学校名古屋ホスピタリティ・アカデミー	東京ITプログラミング&会計専門学校	名古屋福祉専門学校
美容専門学校アーティスト・ヘア・カレッジ	加茂看護専門学校	専門学校ルネサンス・ペット・アカデミー	トライデントコンピュータ専門学校	名古屋リゾート&スポーツ専門学校
横浜こども専門学校	慈恵歯科医療ファッション専門学校	中部美容専門学校	名古屋美容専門学校	パンタンデザイン研究所専門部
愛知県立名古屋高等技術専門学校	専門学校セントラルトリミングアカデミー	東海工業専門学校 金山校	名古屋スクールオブミュージック&ダンス専門学校	山野美容専門学校
大阪教育福祉専門学校	専門学校名古屋ビジネス・アカデミー	東放学園専門学校	名古屋ファッション専門学校	ルネサンスデザイン・美容専門学校
蒲郡市立ソフィア看護専門学校	専門学校ビジョナリーアーツ	トライデント外国語・エアライン・ホテル専門学校	名古屋ユマニテク調理製菓専門学校	名古屋医健スポーツ専門学校
国際文化理容美容専門学校	中部ファッション専門学校	名古屋ウエディング&ブライダル専門学校	パンタンゲームアカデミー専門部	名古屋経営会計専門学校
愛知文化服装専門学校	辻調理師専門学校	名古屋理容美容専門学校	セブンティーン美容専門学校	次項へ続く

【専門学校】 ※50音順

大原簿記情報医療専門学校 更生看護専門学校 諏訪赤十字看護専門学校 専門学校トヨタ名古屋自動車大学校 専門学校浜松医療学院 中京法律専門学校	東京医薬看護専門学校 東京アニメ声優&スポーツ専門学校 中日本航空専門学校 名古屋外語・ホテル・ブライダル専門学校 名古屋調理師専門学校 名古屋文化学園保育専門学校	東三河看護専門学校 ユマニテク看護助産専門学校 ルネス紅葉スポーツ柔整専門学校 安城碧海看護専門学校 岡山赤十字看護専門学校 国際医療技術専門学校	専門学校名古屋ウェディング&フラワービューティ学院 専門学校浜松工科自動車大学校 中日美容専門学校 帝京福祉専門学校 東京ガラス工芸研究所 豊橋歯科衛生士専門学校	名古屋経営会計専門学校 名古屋社会学園調理専門学校 名古屋文理栄養士専門学校 日本医学柔整鍼灸専門学校 東三河高等技術専門学校 横浜労災看護専門学校
---	---	--	--	---

【就職】※50音順

アース電気株式会社 一般財団法人休暇村協会 休暇村伊良湖 医療法人 聖俊会 株式会社アーレスティ 東海工場 株式会社伊勢安金網製作所 株式会社光邦 株式会社スタック 株式会社トラジャールフレール 株式会社菱和テレコム 新東工業株式会社 豊川製作所 貴城精工株式会社 TBCグループ株式会社 トピー工業株式会社 豊橋製造所 豊橋商工信用組合 日本ガスコム株式会社 豊立電設株式会社 武蔵精密工業株式会社 ユニクラフトナグラ株式会社 旭精機株式会社 一般社団法人 全日検 名古屋支部 医療法人 整友会 株式会社アイシン 株式会社ウィズ 株式会社サンヨネ 株式会社創健 株式会社成田製作所 御津工場 蒲郡信用金庫 杉浦工業株式会社 中協運輸株式会社	天狗佐詰株式会社 白鳥工場 豊川信用金庫 豊橋信用金庫 日本車輛製造株式会社 宝和工業株式会社 豊橋工場 明海リサイクルセンター株式会社 横浜ゴム株式会社 新城工場 旭メタルズ株式会社 一般社団法人 日本貨物検数協会 医療法人 積善病院 株式会社アイセロ 株式会社ウッドワン 東海製造部 株式会社シーパレス 株式会社タワホテルアンドリゾート(ロワジュールホテル豊橋) 株式会社ニトムズ カリソー株式会社 スズキ株式会社 中部シーリング印刷株式会社 デンソー株式会社 豊倉サービス株式会社 豊橋中央青果市場 日本トレクス株式会社 豊和食品株式会社 守田光学工業株式会社 ラ・ポルト美容室 渥美運輸株式会社 井村屋フーズ株式会社 医療法人 村松歯科医院 株式会社アイメディカルシステム	株式会社うめの郷 株式会社ジェイアール東海ホテルズ 株式会社中部 株式会社廣澤精機製作所 新城工場 川西塗装株式会社 スタンレー電気株式会社 岡崎製作所 中部パワーグリッド株式会社 東海旅客鉄道株式会社静岡支社(車輛) トヨタ自動車株式会社 豊橋鉄道株式会社 ハートランド株式会社 auショップ 丸トポトリー食品株式会社 山崎産業株式会社 ルブラボウ アラキ製菓有限公司 医療法人 義興会 可知病院 インブルー有会社 株式会社縣鉄工 株式会社江崎商店 株式会社シマダマシンツール 株式会社TDモバイル 株式会社不二プレジジョン KeePer技術株式会社運営本部 セキスイハイム工業株式会社 中部営業所 千代田インテグレ株式会社 関東事業所 東京製鐵株式会社 田原工場 トヨタバッテリー株式会社 鳥居歯科医院 秦野精密株式会社	三菱ケミカル株式会社 東海事業所 山崎製パン株式会社 レンゴー株式会社 豊橋工場 アラコ株式会社 医療法人 光生会病院 宇都宮工業株式会社 株式会社アジアル 株式会社小田鐵工 株式会社食研豊橋工場 株式会社東海理化電機製作所 株式会社ベントン (旧石崎本店) 三和機工株式会社 セコム株式会社 辻徳技研株式会社 東洋製罐株式会社 豊橋工場 豊鉄観光バス株式会社 名古屋銀行 ばんの内科クリニック みと開発株式会社 みとゴルフ倶楽部 有限会社スパイラル レンテック大敬株式会社 ALSOK株式会社 医療法人 羔羊会 弥生病院 NJT銅管株式会社 株式会社アダストリア 株式会社加組 株式会社新来島豊橋造船 株式会社トヨタエンタープライズ 株式会社丸上製作所	社会福祉法人 福寿園 大三紙業株式会社 津田工業株式会社 東レ株式会社 愛知工場 トヨケン株式会社 二光治療院 ビューテック株式会社 宮川工機株式会社 有限会社藤沢電機 石田産業株式会社 医療法人 正眼堂足田歯科医院 大羽精研株式会社 株式会社渥美フーズ 株式会社香月堂 株式会社スズキ納整センター 株式会社豊田自動織機 株式会社睦自動車 シロキ工業株式会社 豊川工場 高師ほんごう歯科クリニック 常友防災株式会社 トピー海運株式会社本社 豊橋NDS株式会社 日東電工株式会社 豊橋事業所 フタバ産業株式会社 向島流通サービス株式会社 有楽製菓株式会社 豊橋夢工場
---	--	--	---	---

歴代校長・各種団体会長一覧

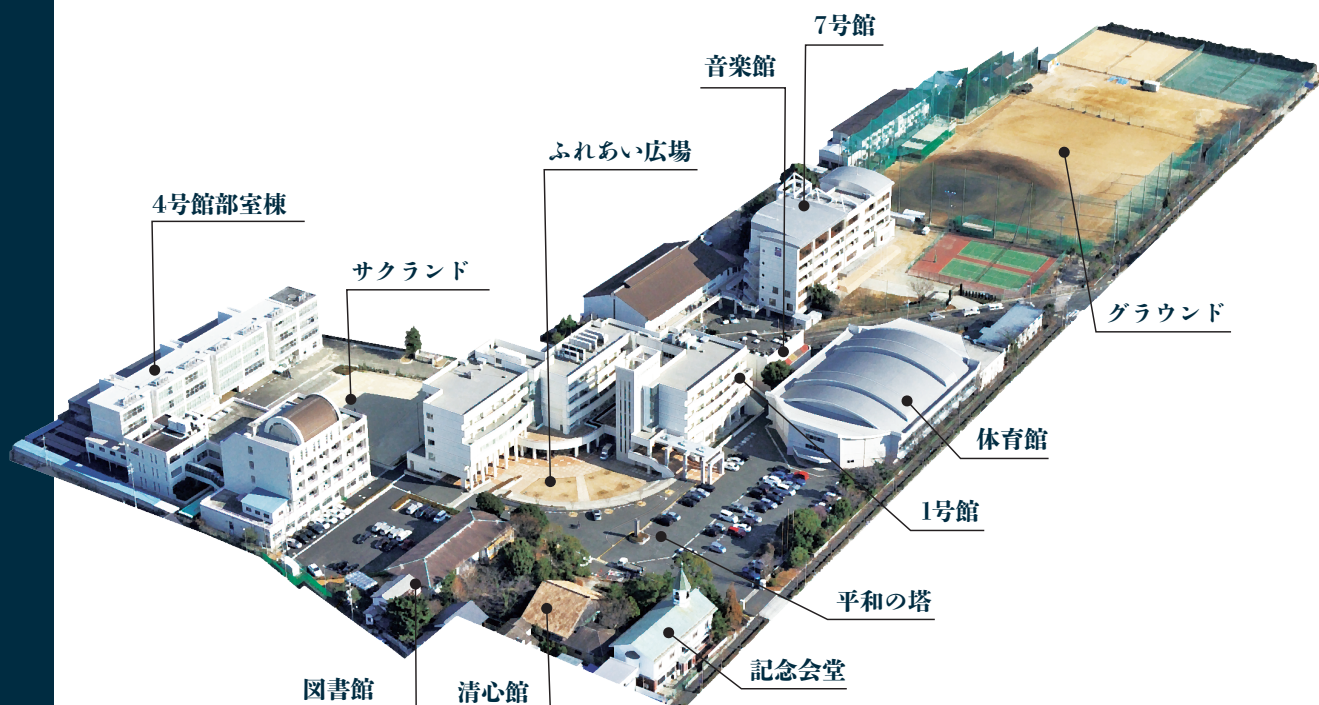
担当年度	父母の会 会長	教育後援会 会長	楽友会会長	さくら会 会長	中学父母の会 会長	中学教育後援会 SSJの会長	中学さくら会会長	父母懇 常任幹事	父母懇 ブロック長	高等学校長	中学校長	教職員組合 委員長
H18 2006	浅野勝之	今泉新市	高岡 徹	鈴木賢太郎	平塚宏隆	高坂泰弘	星野周二	荒木好子	田中直見	岩田邦彦	酒井昭次	渡邊 学
H19 2007	熊谷米司	今泉新市	高岡 徹	鈴木賢太郎	二橋彰紀	高坂泰弘	服部幸緒	荒木好子	田中直見	岩田邦彦	酒井昭次	渡邊 学
H20 2008	白井利幸	今泉新市	高岡 徹	鈴木賢太郎	原田雅章	高村道則	服部幸緒	荒木好子	伊藤裕子	岩田邦彦	酒井昭次	渡邊 学
H21 2009	堀江 学	今泉新市	熊谷米司	鳥山昌宏	吉見光晴	高村道則	服部幸緒	白井義枝	向坂雅世	岩田邦彦	長坂良彦	渡邊 学
H22 2010	池田 諭	今泉新市	熊谷米司	鳥山昌宏	松井忠博	高村道則	服部幸緒	白井義枝	向坂雅世	岩田邦彦	長坂良彦	飯田英樹
H23 2011	大木克実	今泉新市	志村伸子	鳥山昌宏	安達道行	高村道則	清田知子	白井義枝	向坂雅世	岩田邦彦	長坂良彦	飯田英樹
H24 2012	山本忠男	今泉新市	志村伸子	鳥山昌宏	阿部 弘	高村道則	清田知子	星野祐子	向坂雅世	岩田邦彦	長坂良彦	市川善康
H25 2013	森 芳明	白井利幸	志村伸子	鳥山昌宏	酒井正樹	二橋彰紀	清田知子	星野祐子	山本志津江	渡邊 学	長坂良彦	市川善康
H26 2014	大森敬之	堀江 学	志村伸子	鳥山昌宏	田中宏明	二橋彰紀	清田知子	星野祐子	山本志津江	渡邊 学	長坂良彦	市川善康
H27 2015	阿部 弘	堀江 学	志村伸子	鳥山昌宏	岡崎伸彦	二橋彰紀	清田知子	大柿幸枝	石橋久美子	渡邊 学	飯田祐二	市川善康
H28 2016	川合亨知	堀江 学	志村伸子	鳥山昌宏	伊東伸治	二橋彰紀	清田知子	大柿幸枝	石橋久美子	渡邊 学	飯田祐二	市川善康
H29 2017	高津由久	堀江 学	伊藤彰紀	鳥山昌宏	木下孝宏	松井忠博	清田知子	大柿幸枝	石橋久美子	渡邊 学	飯田英樹	市川善康
H30 2018	宮田滋剛	阿部 弘	伊藤彰紀	柴田敏博	笠原大地	松井忠博	清田知子	柴田理江	仲谷公子	渡邊 学	飯田英樹	松島洋幸
R1 2019	川北謙二	阿部 弘	伊藤彰紀	柴田敏博	白井秀昌	松井忠博	植田絢一	柴田理江	仲谷公子 前澤素己	渡邊 学	飯田英樹	松島洋幸
R2 2020	廣中 正	阿部 弘	伊藤彰紀	柴田敏博	間瀬佳孝	松井忠博	植田絢一	村田明美	前澤素己	渡邊 学	満田康一	松島洋幸
R3 2021	笠原大地	阿部 弘	伊藤彰紀	柴田敏博	佐藤 弘	松井忠博	植田絢一	村田明美	権田志穂	渡邊 学	満田康一	松島洋幸
R4 2022	山後和規	阿部 弘	伊藤彰紀	柴田敏博	原田 剛	松井忠博	植田絢一	保科和美	権田志穂	横山貴美	満田康一	岩佐 潤
R5 2023	間瀬佳孝	阿部 弘	伊藤彰紀	柴田敏博	安藤長生	松井忠博	植田絢一	白井博江	澁谷陽代	横山貴美	満田康一	岩佐 潤
R6 2024	鳥井政直	川北謙二	伊藤彰紀	柴田敏博	兵道 努	笠原大地	植田絢一	前田礼美	鈴木久子	横山貴美	満田康一	岩佐 潤
R7 2025	山後和規	川北謙二	伊藤彰紀	柴田敏博	惣田季靖	笠原大地	植田絢一	新垣里恵	鈴木久子	横山貴美	満田康一	岩佐 潤
						※2020年度 から名称変更						



施設・制服紹介

進化する学舎と施設

地域とともに歩んできた歴史ある学び舎です。充実した施設は、生徒たちの学びと成長を支える環境として整備されてきました。また、制服はデザイン性と機能性の両面で評価が高く、地域の方々や在校生からも親しまれています。これからも魅力ある学校づくりを目指してまいります。



ふれあい広場

生徒たちの憩いの場。学園祭では特設ステージが設けられ、生徒たちの熱いパフォーマンスが繰り上げられます。



音楽館

グランドピアノ20台・電子オルガン2台・チェンバロ等があり、防音されたレッスン室は7:00～19:00まで練習することができます。



7号館

高等部、中学生が学ぶ校舎。この中に選択教室、発表会などが行われるホールなどがあります。



図書館

19:30まで開いている図書館では、自分のペースで学習を進められるサポートセンターもあります。



4号館部室棟

敷地の一番奥に位置する4号館には高校の教室と部室があります。



サクランド

校舎に囲まれた中規模のグラウンド。学園祭ではミニステージなども設置されます。



グラウンド

桜丘学園のメイングラウンド。体育祭ではこの場所で熱い闘いが繰り広げられます。



体育館

授業はもちろん、部活動で活気づく場所。高校生の入学式・卒業式はここで行われます。



1号館

校舎中央に立つ塔は、桜丘のシンボルとして「光の子」である生徒たちの希望の象徴。桜丘の精神を脈々と伝えています。



平和の塔

福岡県八女市星野村にともる広島原爆投下の火を採火した塔。仰ぎ見る生徒たちに平和の心を灯し続けています。



記念会堂

昭和51年建設。先端の十字架は日露戦争当時、松山捕虜収容所にいたロシア兵の信仰の場として建てられたロシア正教会聖堂の塔にあったもの。



清心館

清心館は明治18年に建てられた旧陸軍歩兵第18連隊の兵舎。桜丘は戦災により校舎が消失したためこの建物を借用し仮校舎に。昭和54年移築復元。



沖野グラウンド

2022年8月に学校から自転車で約10分の場所(牛川町瀬ノ上)に野球場が竣工しました。敷地面積は約3万㎡。サブグラウンド、クラブハウスも備えており、思いっきり練習することができます。

桜丘の制服の充実

特徴的なブルーの制服。とっても爽やかで明るい印象を与えます。衣替えはないので、気温に合わせて着用します。



春秋冬

夏

Point



エンブレム



リボン/ネクタイ(男女)



靴下



セーター



チェック



編集後記 一次の100年へー

100周年という大きな節目にあたり、まさか自分が記念誌の編集長を務めることになるとは思っていませんでした。正直なところ、最初は不安もありましたが、原稿のやりとりを重ねるなかで、多くの方が桜丘を大切に思い、今なお関わり続けてくださっていることを改めて知ることができました。「100年」と一言で言ってしまうは簡単ですが、その中には、日々積み重ねられてきた努力や想いの重みがあります。今回、この編集という仕事を通して、「続けること」「続いていくこと」のすごさ、そしてその尊さを、しみじみと感じました。

誌面づくりでは、様々な方のメッセージにうなずいたり、懐かしい写真を探したり、時には笑ったりしながら、私自身もたくさんの元気をいただきました。卒業生の皆さんにもアンケートにご協力いただきましたが、それぞれの分野で活躍されている様子に、読みながら何度も胸が熱くなりました。どの言葉からも、桜丘で過ごした時間が息づいており、私たち教師にとっても大きな励ましとなり、誇りとなりました。原稿をご執筆いただいた先生方には、「執筆中は舌を上あごにつけておくと、美容にも健康にもいいですよ（笑）」なんてお声がけをしながら、少しでも楽しく、前向きな気持ちで取り組んでいただければと願っていました。そんな何気ない工夫も、今では楽しい思い出です。そうした一つひとつのやりとりを通じて、桜丘が大切にしてきた“人と人とのつながり”を改めて感じました。読んでくださる皆さんにも、そんな前向きな気持ちが伝われば嬉しく思います。

健康であること、心と体のバランスを保つこと——それは、人が学び、働き、つながっていくうえで欠かせない土台です。そして、その土台があったからこそ、桜丘も100年という長い道のりを歩んでこられたのだと感じています。

最後になりますが、この記念誌の制作にご協力くださったすべての皆さまに、心より感謝申し上げます。そして、これからの桜丘がさらに多くの人に愛され、次の100年へと力強く歩んでいけるよう、心から願っています。

創立100周年記念誌編集委員 野沢佳子

100 1925 ————— 2025
SAKURAGAOKA 100 YEARS ANNIVERSARY

学園創立100周年
記念サイト



発行 | 学校法人 桜丘学園
豊橋市南牛川2-1-11 TEL.0570-039-396

編集 | 桜丘創立100周年記念誌編集委員会

ブックデザイン | 株式会社 イヅミ

印刷 | 株式会社 北川印刷

学校法人桜丘学園
創立100周年記念誌
編集委員会

満田 康一	梅村 岳史
横山 貴美	清野 右子
高橋 勇雄	松島 洋幸
鈴木 順久	石黒 寿枝
野畑さおり	岩佐 潤
島田 冬彦	柴田 匡俊
市川 善康	佐々木乃理
金丸 理恵	板橋 宏通
柴田 真宏	野沢 佳子

2025年11月10日発行



学校法人 桜丘学園

〒440-8516 豊橋市南牛川二丁目 1-11
TEL0570-039-396 FAX0532-63-9278
www.sakuragaoka-gakuen.ed.jp